決算説明資料

2026年3月期(2025年度)
期末決算
2025/04～2026/03

TACHI-S CO.,LTD.
2026年5月26日

東証プライム　証券コード　7239

皆さまこんにちは、社長の山本でございます。
本日はご多忙の中、当社2026年3月期 期末決算説明会にご参加いただき
誠にありがとうございます。

当社が属する自動車業界では、電動化・知能化等の技術革新が進む一方で、
各国での自動車に係わる政策の修正、また中国メーカーのグローバルでの台頭など
競争環境の厳しさが増しております。
足元では中東情勢の緊迫化によりサプライチェーンへの影響と共に物価高に繋がってきており、
事業環境は不透明感を強めています。

これら多様な課題に直面する中、ステークホルダーの皆様には当社の活動に日頃より
ご理解をいただき心より感謝申し上げます。

本日はまず2026年3月期決算について説明させていただき、その後、2025年度から開始しました
中期経営計画 Transformative Value Evolution（TVE） Wave2 2027 の進捗
についてご説明いたします。

プロフィール

商　　号	株式会社 タチエス
本　　社	東京都青梅市末広町１－３－１
設　　立	1954年4月
資　本　金	90億40百万円
売　上　高	2,690 億円 (2026年3月期 連結)
社　員　数	8,790 名　(2026年3月期 連結)
株　　式	東京証券取引所 プライム市場
事 業 内 容	自動車シート製造業

TACHI-S

当社タチエスのプロフィールは、ご覧のとおりでございます。

目次

1．2026年3月期 決算実績

2．2027年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

※Transformative Value Evolution

本日の説明内容はこちらに記載の通りとなります。

目次

1．2026年3月期 決算実績

2．2027年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

※Transformative Value Evolution

まず初めに2026年3月期　決算実績について、ご説明いたします。

2026年3月期 決算概要（連結）ー前期比･計画比ー

単位：億円（億円未満切捨て）

	25/3	26/3		増減額 増減率	
	実績	25年11月公表 計画値	実績	前期比	計画比
売上高	2,853	2,640	2,690	-163 -5.7%	+50 +1.9%
営業利益	96	90	116	+19 +20.6%	+26 +28.9%
経常利益	107	110	138	+30 +28.2%	+28 +25.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	113	80	92	-20 -17.8%	+12 +16.2%

＜26/03 前期比概要＞

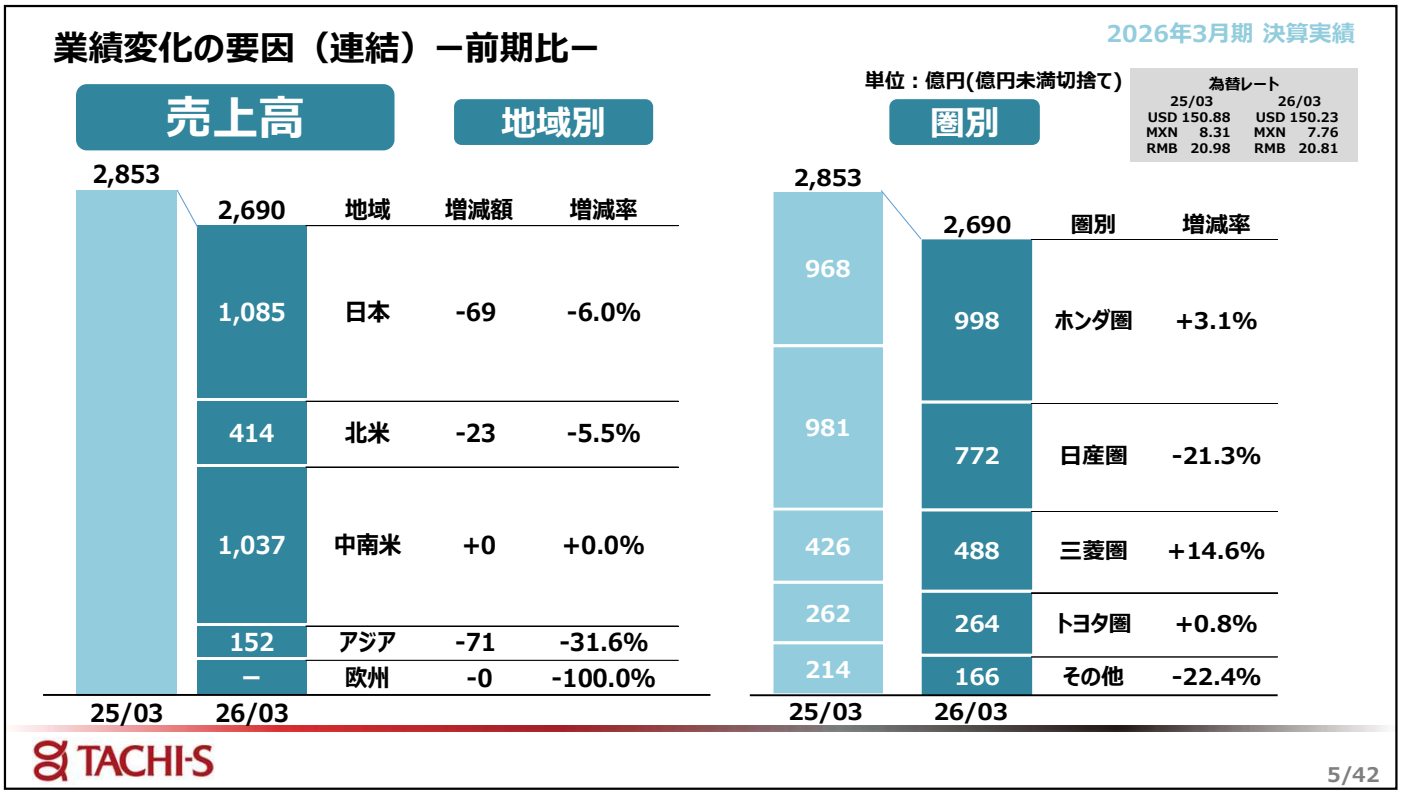
- ◆ 売上高は日本の販売台数減少影響と、北米の日産向けビジネスの閉鎖及び中国において事業会社を持分法適用会社へ変更した影響により減収となりました。営業利益は継続して取り組む収益改善や構造改革の効果により増益となりました。
- ◆ 経常利益は前期の関係会社配当金及び利息回収が減少した影響があったものの、円安による為替差損の減少効果により増益となりました。親会社に帰属する当期純利益は、前期の固定資産売却益や関係会社等の株式売却益の剥落により減益となりました。

TACHI-S

2026年3月期の売上高は前年同期に対しまして、163億円減収の2,690億円となりました。
営業利益は 19億円 増加し 116億円となり、創業以来の最高水準となりました。

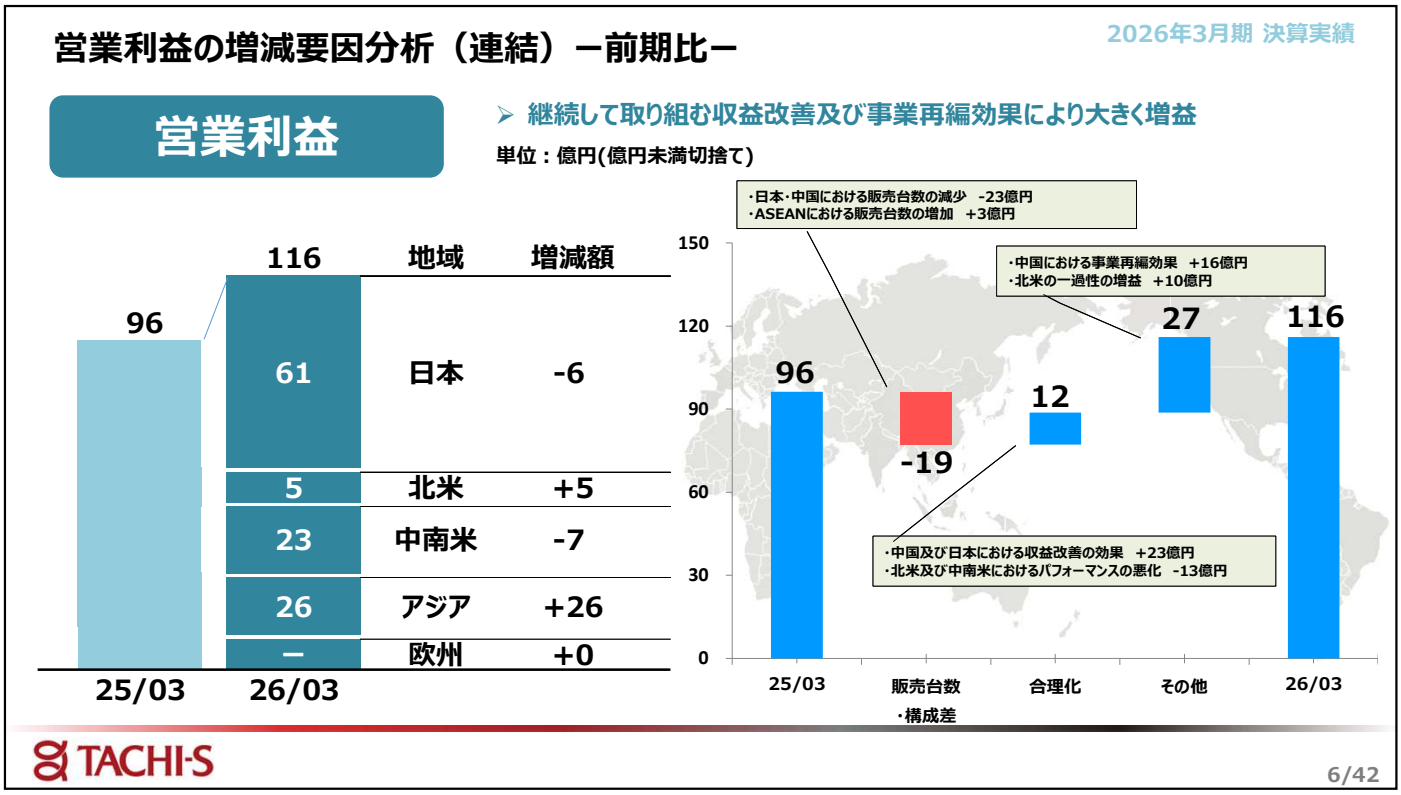
また、2025年11月の公表値に対しましては、スライド右端にお示ししております通り、
売上高から営業利益、経常利益、当期利益の全ての項目で公表値を上回ることができました。

決算概況は記載の通りですが、次ページ以降でこれらの内容についてご説明いたします。

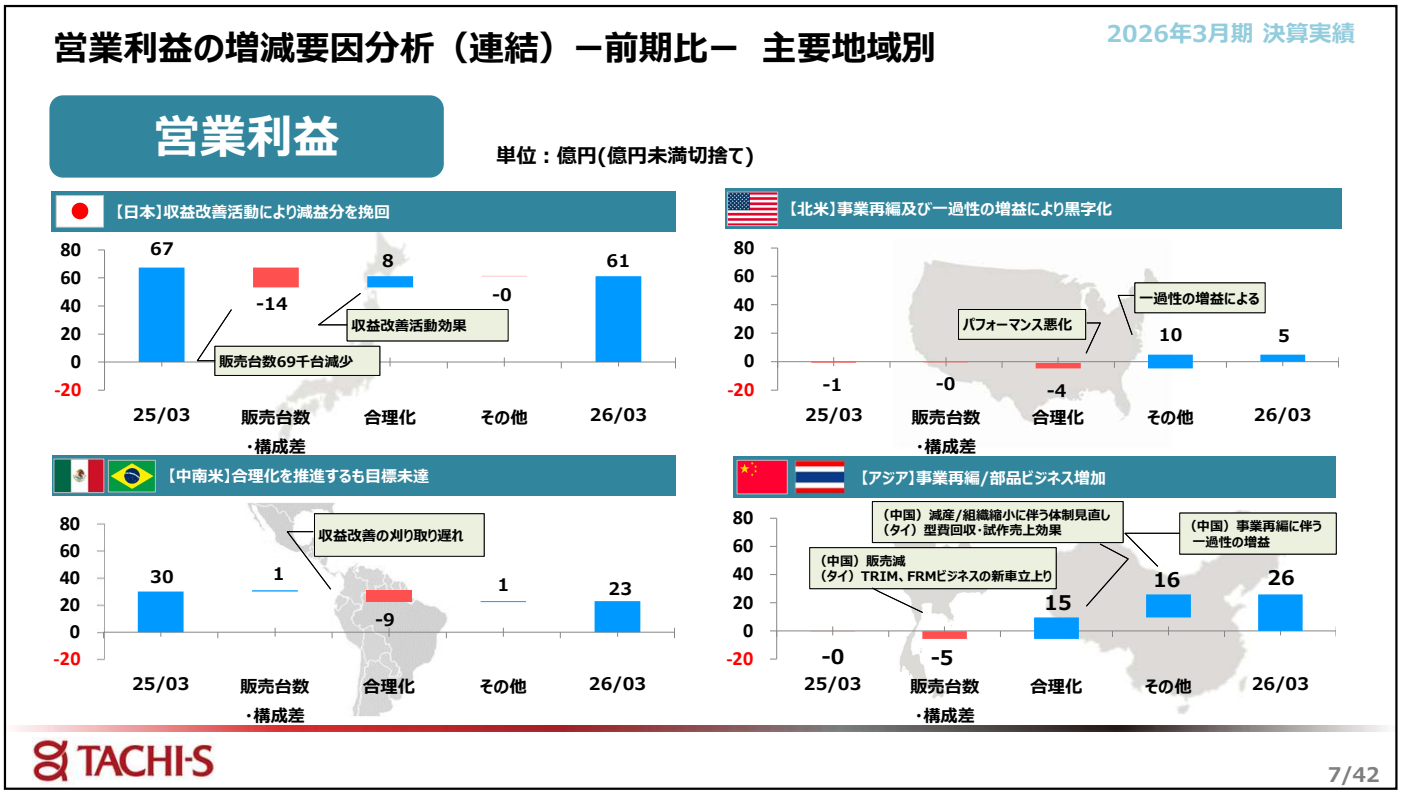


売上高については、日本の販売台数減少と、北米の日産向けビジネスの拠点の閉鎖及び中国において一部の事業会社を持分法適用会社へ変更した影響により、前年同期比5.7%減少の2,690億円となりました。

なお本資料上は、中国と東南アジアを合算し、アジアとして記載しております。



営業利益では、販売台数の減少はあったものの、継続して取り組む収益改善や構造改革の効果により、前年同期比20.6%増の116億円となりました。



地域毎に営業利益の増減要因を見ますと、
日本においては収益改善活動の効果はあったものの販売台数の減少により、
前年同期より６億円減益の61億円となりました。

北米でも販売台数は落ち込みましたが、事業再編や開発費回収などの一過性の収益効果により、
前年同期より５億円増加し５億円となりました。

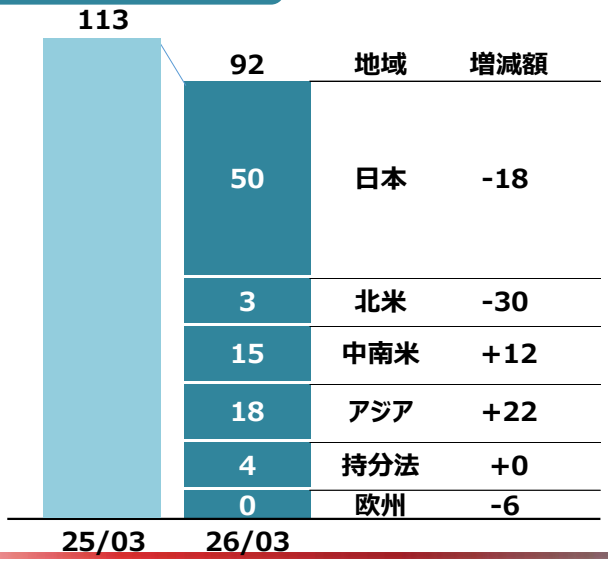
中南米では、販売台数は増加したものの、収益改善の刈り取り遅れによって、
前年同期より７億円減益の23億円となりました。

アジアにおいては、中国で販売台数は減少したものの、減産時のマネジメントや事業再編効果で
増益となりました。タイにおいては新車立ち上がり効果で部品販売が伸長したことや、型費及び
試作品の売上回収などにより、前年同期より26億円増益の26億円となりました。

業績変化の要因（連結）ー前期比ー

親会社株主に帰属する当期純利益

単位：億円(億円未満切捨て)



	地域	増減額
50	日本	-18
3	北米	-30
15	中南米	+12
18	アジア	+22
4	持分法	+0
0	欧州	-6

➢ 前期の固定資産売却益や関係会社等の株式売却益の剥落により減益

TACHI-S

親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に計上した固定資産売却益や、関係会社等の株式売却益が剥落している影響で、前年同期より20億円減益の92億円となりました。

目次

1．2026年3月期 決算実績

2．2027年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

※Transformative Value Evolution

続きまして、2027年３月期の業績見通しについてご説明いたします。

2027年3月期 業績見通し（連結）

単位：億円
（億円未満切捨て）

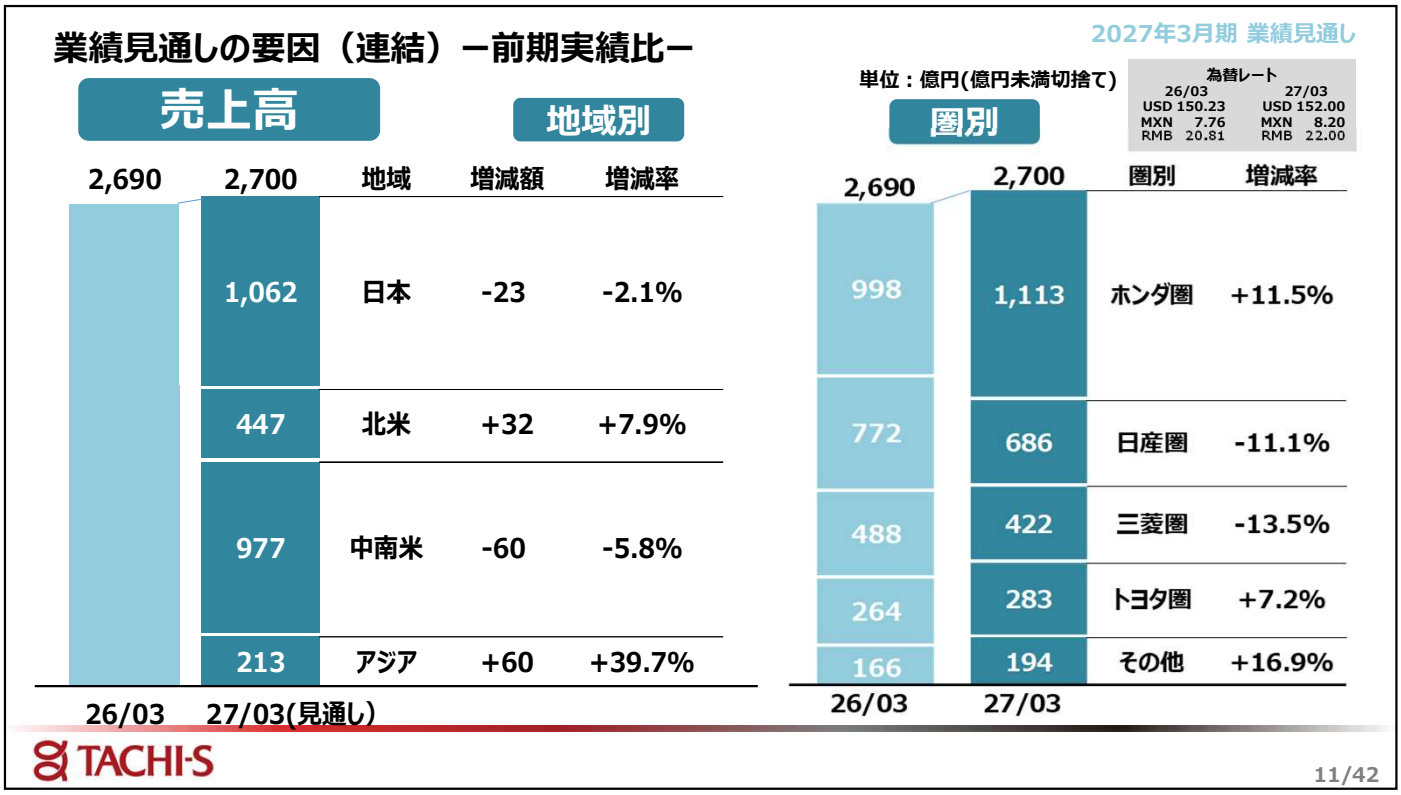
	26/3	27/3	増減額	増減率(%)
売上高	2,690	2,700	+9	+0.4
営業利益	116	120	+3	+3.4
経常利益	138	130	-8	-5.9
親会社株主に帰属する当期純利益	92	86	-6	-7.5

<27/03 通期見通し>　※４月10日発表のTOYO　H&I統合影響については本見通しに含んでおりません。

- ◆ 売上高は、中南米の販売台数減少影響があるものの、日本、北米、アジアの得意先販売台数増加効果により微増となる見込みです。営業利益は前年度の中国における事業再編効果及び北米の一過性収益の剥落があるものの、各地域での販売台数増加や、中南米の生産性向上効果により増益を見込んでいます。
- ◆ 経常利益は、持分法会社の増益を見込むものの、為替影響により減益。親会社株主に帰属する当期純利益は、前年度の事業再編費用減少の効果はあるものの、為替影響等により減益で着地見込みです。

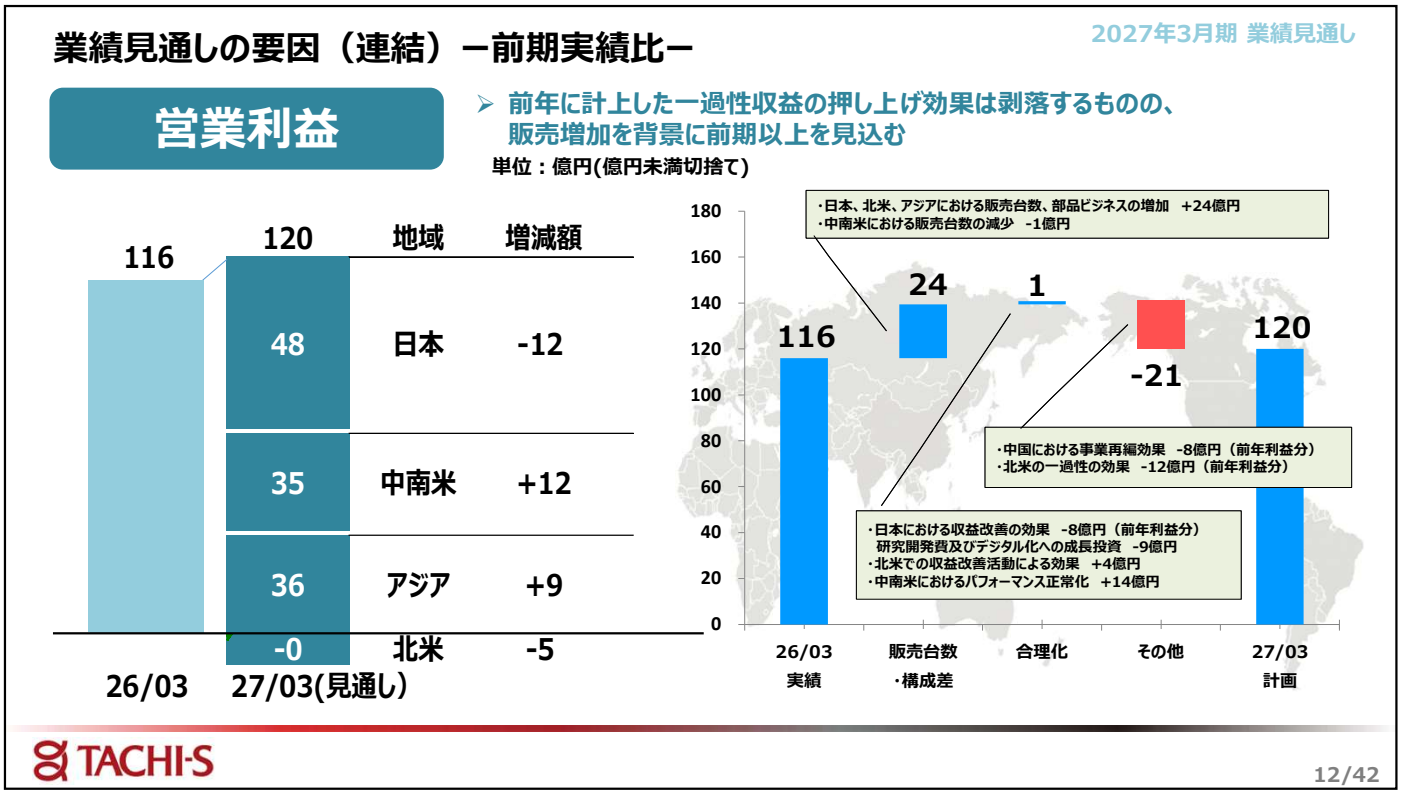
TACHI-S

売上高は 2,700億円 、営業利益は 120億円と、前期実績に対し増収増益となる見込みです。
決算見通しの概況は記載の通りですが、 次ページ以降でこれらの内容について
ご説明いたします。



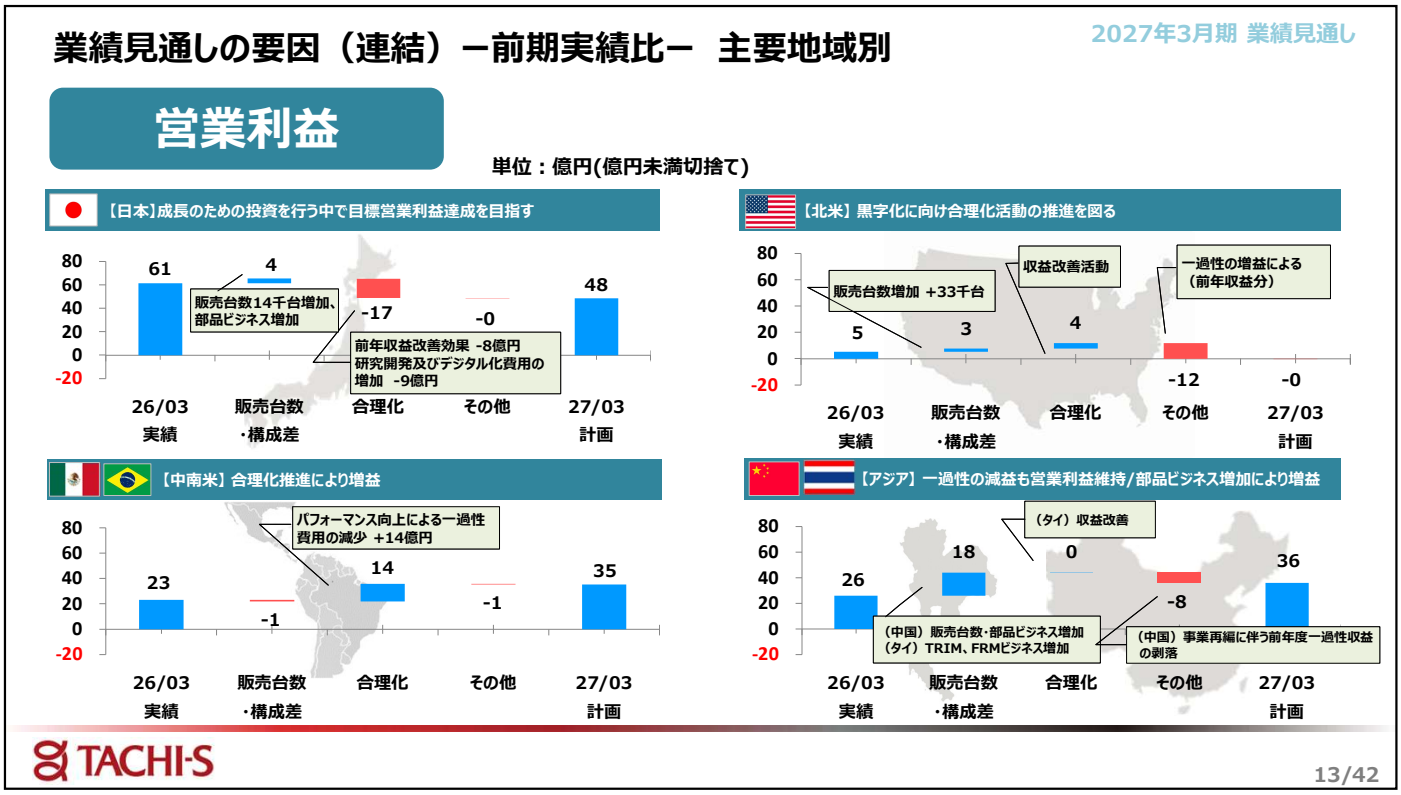
売上高は、日本において前期に計上した一過性の増収効果の剥落や中南米で販売台数減少を見込むものの、日本、北米、アジアの得意先販売台数増加効果により微増の2,700億円となる見込みです。

得意先圏別でみますと、ホンダ、トヨタ圏で増加、日産、三菱圏で減少を見込んでおります。



営業利益は、前年度の中国における事業再編効果及び、北米で計上した一過性の収益効果が剥落するものの、各地域での販売台数増加や、中南米の生産性向上効果を考慮し、対前年４億円増益の120億円を見込んでおります。

なお、本見通しには中東情勢の緊張による部品調達リスクや、米国トランプ政権による追加関税の影響は含んでおりません。



地域別で営業利益の増減要因を見ますと、
日本においては、販売台数は増加するものの、前年の一過性収益の剥落や研究開発及び
デジタル化推進費用の増加により、前年実績より12億円減少の48億円を見込んでおります。

北米では、販売台数増加や収益改善活動の効果がある一方で、
前期に計上した一過性収益案件の剥落により、前年実績より減益の営業損失を見込んでいます。

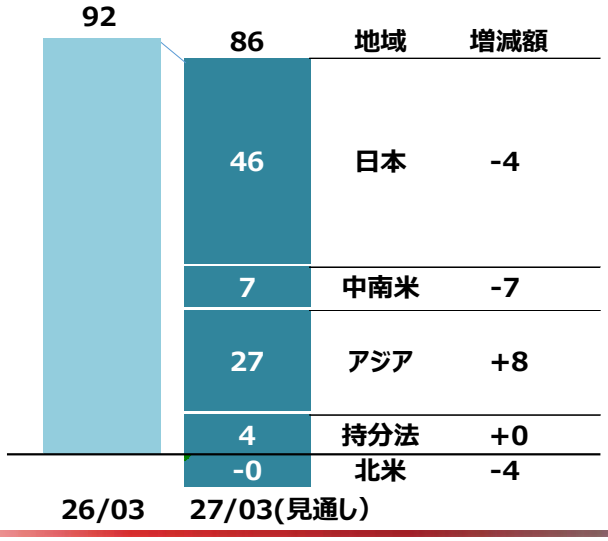
中南米においては、販売台数の減少を見込むものの、事業活動の合理化、パフォーマンス向上
によって収益を引き上げ、前年実績より12億円増益の35億円を見込んでおります。

アジアにおいては中国、タイのシート及び部品の販売台数が増加し、中国では前期の一過性収益
は剥落するものの、９億円増益の36億円を見込んでいます。

2027年3月期 通期業績見通し（連結）ー前期実績比ー

親会社株主に帰属する当期純利益

単位：億円(億円未満切捨て)

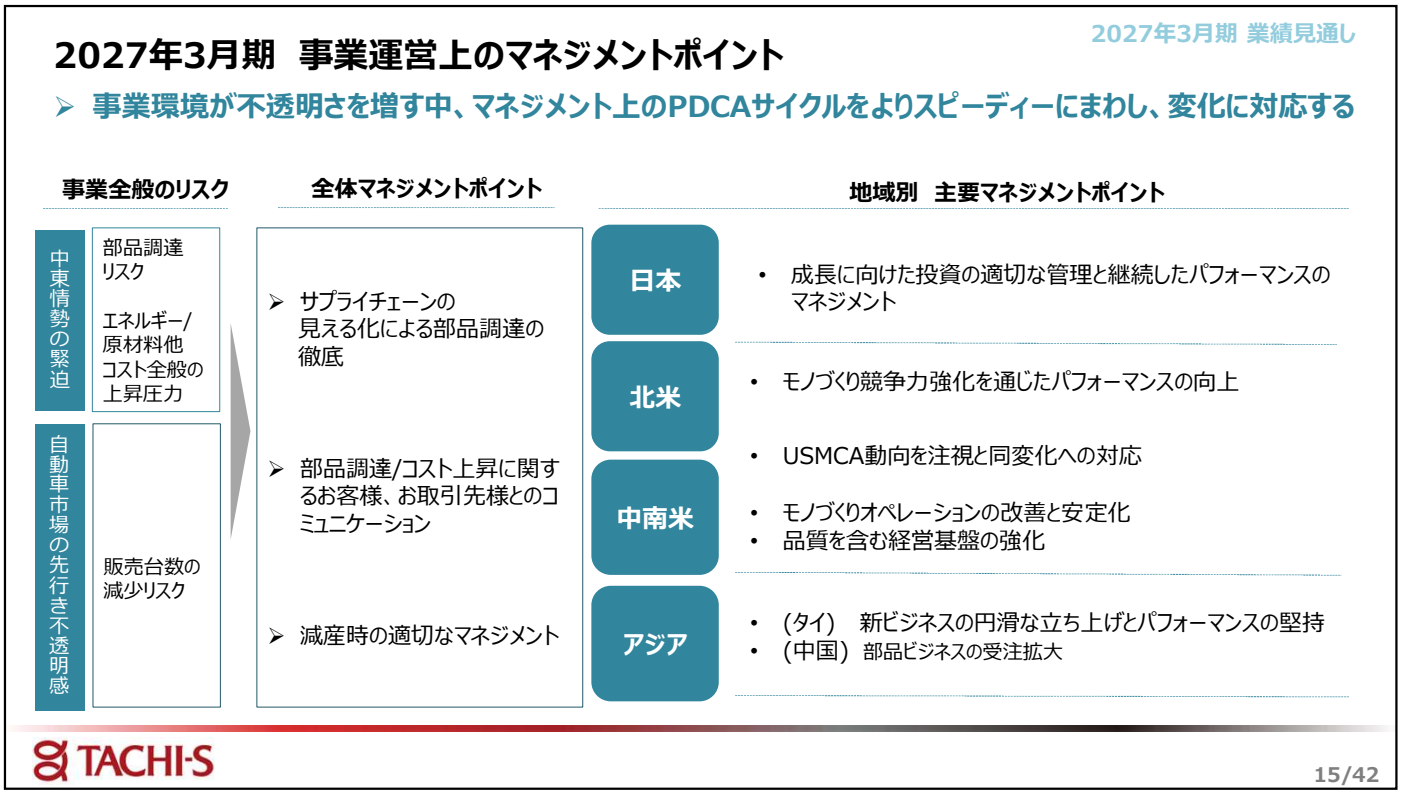


地域	増減額
日本	-4
中南米	-7
アジア	+8
持分法	+0
北米	-4

- 前年度の事業再編費用減少の効果はあるものの、為替影響等により減益で着地見込み

TACHI-S

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年度の事業再編費用が減少した効果はあるものの、為替影響などによって６億円減益の86億円となる見通しです。



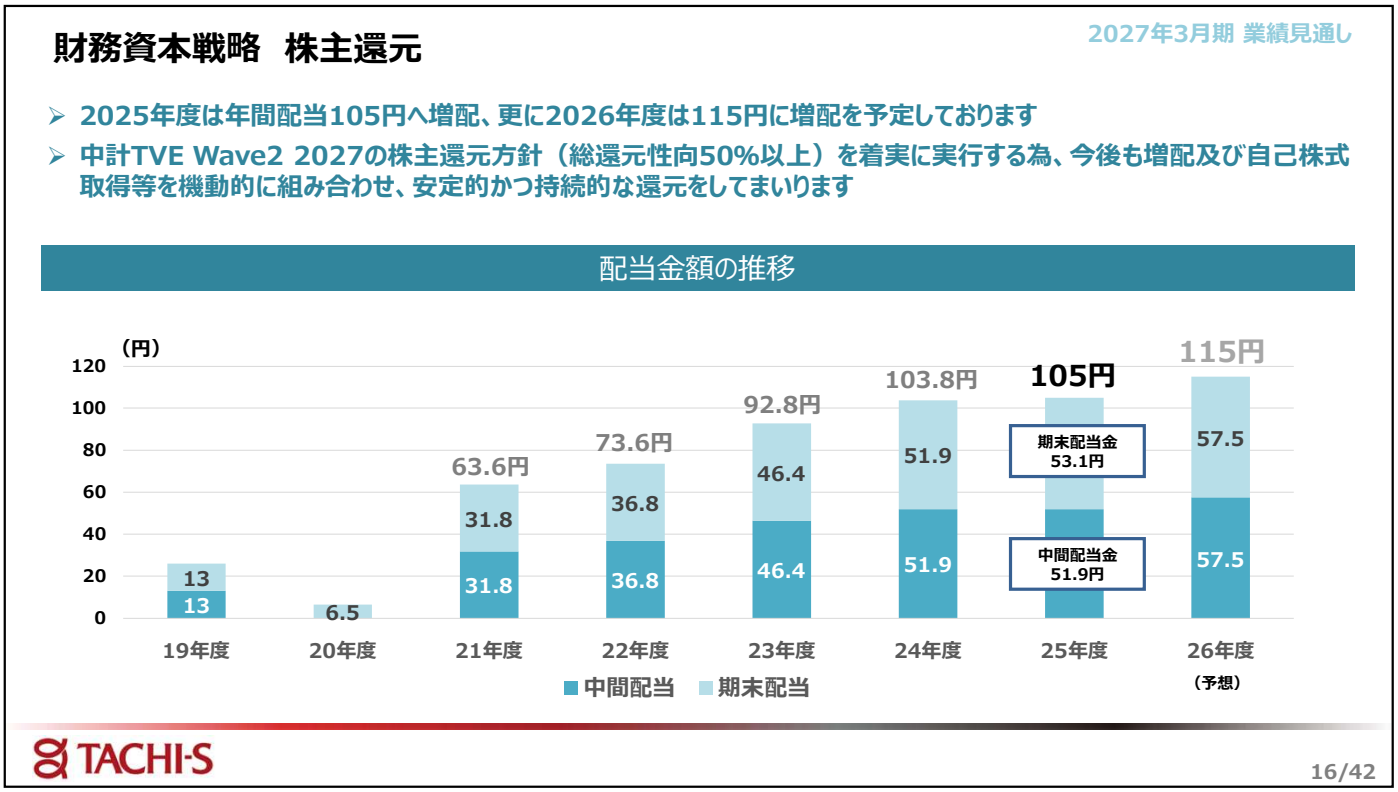
こちらのスライドでは、今期2027年３月期における事業運営上のマネジメントポイントを、
グループ全体と地域別にお示ししたものです。

事業全般のリスクとして、中東情勢の緊迫を背景に部品調達リスクやエネルギー及び原材料などの
コスト全般の上昇圧力があり、また自動車市場の先行き不透明感が増す中、
販売台数の減少をリスクと捉えております。

これらに対し、当社グループではサプライチェーンの見える化によって、部品安定調達の徹底を図り、
部品調達状況及びコスト上昇に関しては、お客様及びお取引先様との密なコミュニケーションを
実行しております。
また減産時のマネジメントも適時適切に全社で対応を行っております。

現状、主要得意先の2026年度の生産台数見通しにおいても、
基本的に生産台数を維持されており、現時点では中東情勢等の影響を
合理的に算出することができないため、同影響は織り込んでおりません。

米国の関税影響については、現状当社取り扱い製品には追加関税は発生しておりませんが、
今年度はUSMCAの見直しが予定されており、日米間の自動車・自動車部品及び、
米国、メキシコ間の同交渉を注視し、適切に対応してまいります。



次に、財務資本戦略のうち、株主還元につきましてご説明いたします。

５月15日の発表の通り、2025年度期末配当は計画値に対し１株当たり1円20銭を追加し53.1円、中間配当の51.9円と合わせ年間105円としました。

更に2026年度は中間、期末配当をそれぞれ57.5円とし、年間115円への増配を予定しております。

中計TVE Wave2 2027の株主還元方針である総還元性向50%以上を着実に実行する為、今後も増配及び自己株式取得等を機動的に組み合わせ、安定的かつ持続的な還元をしてまいります。

目次

1．2025年3月期 決算実績

2．2026年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

TVE Wave2 2027リマインド
「深化」現有事業での持続的価値向上
「深化」組織営業力の強化2.0
「深化」モノづくり競争力の強化2.0
「深化」事業領域の拡大
「進化」
経営基盤の強化

※Transformative Value Evolution

TACHI-S

続いて、昨年度から取り組んでおりますTVE Wave2　2027の進捗状況についてご説明いたします。

目次

1．2025年3月期 決算実績

2．2026年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

TVE Wave2 2027リマインド

「深化」 現有事業での持続的価値向上

「深化」 組織営業力の強化2.0

「深化」 モノづくり競争力の強化2.0

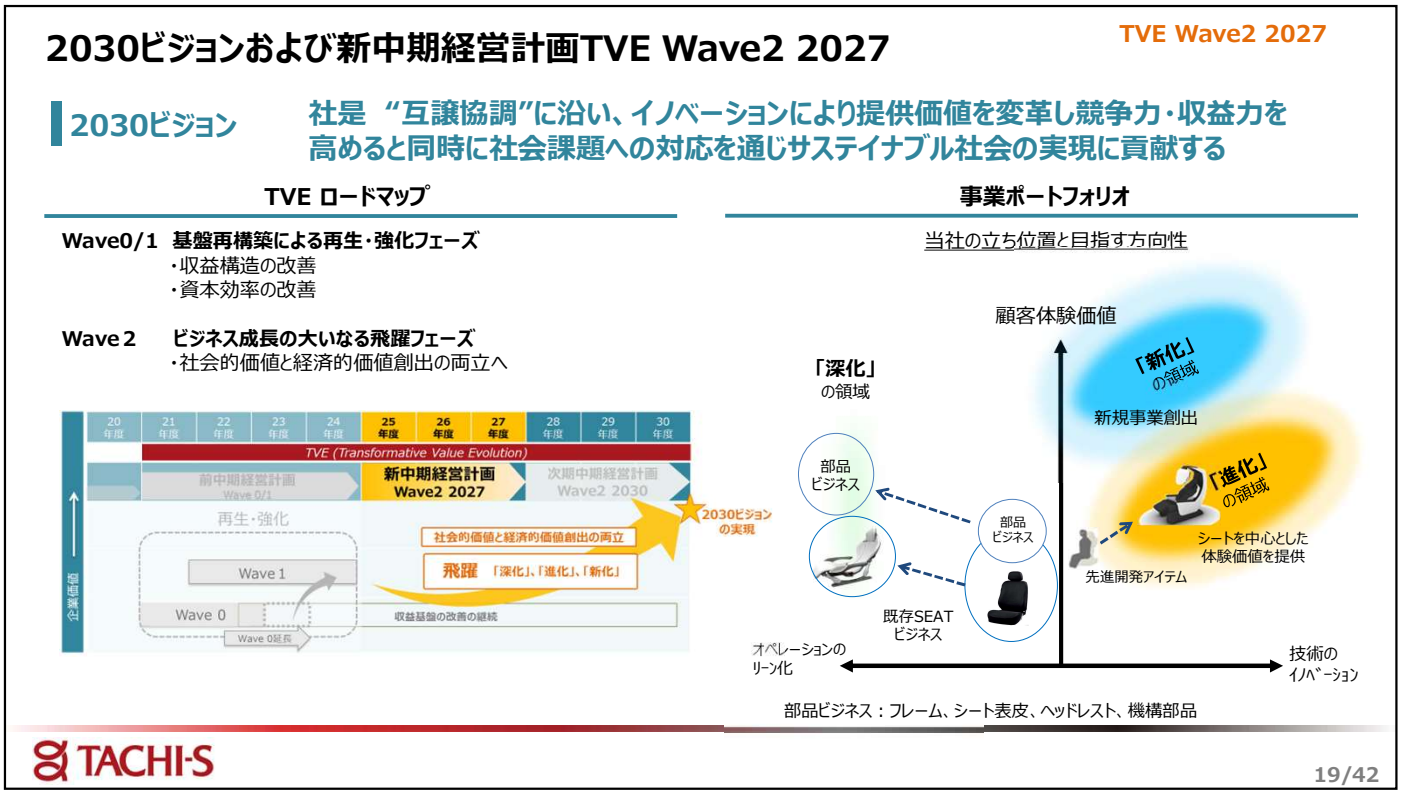
「深化」 事業領域の拡大

「進化」

経営基盤の強化

※Transformative Value Evolution

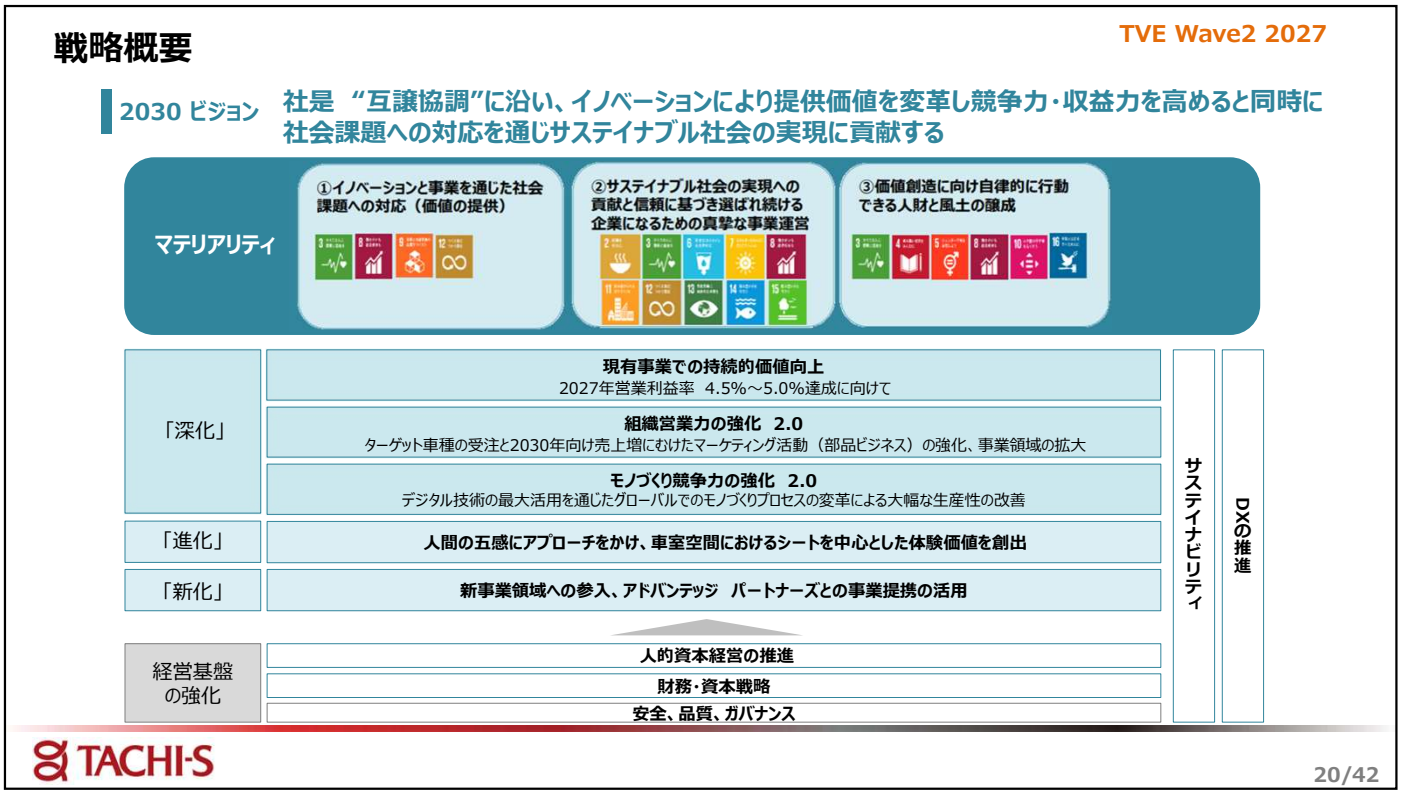
初めに、TVE Wave2　2027の戦略概要などリマインドさせて頂きます。



こちらは、昨年5月の決算説明会でご説明しました、TVE(Transformative Value Evolution)のゴールである2030年度のビジョンと、そのビジョン達成に向けてのロードマップです。

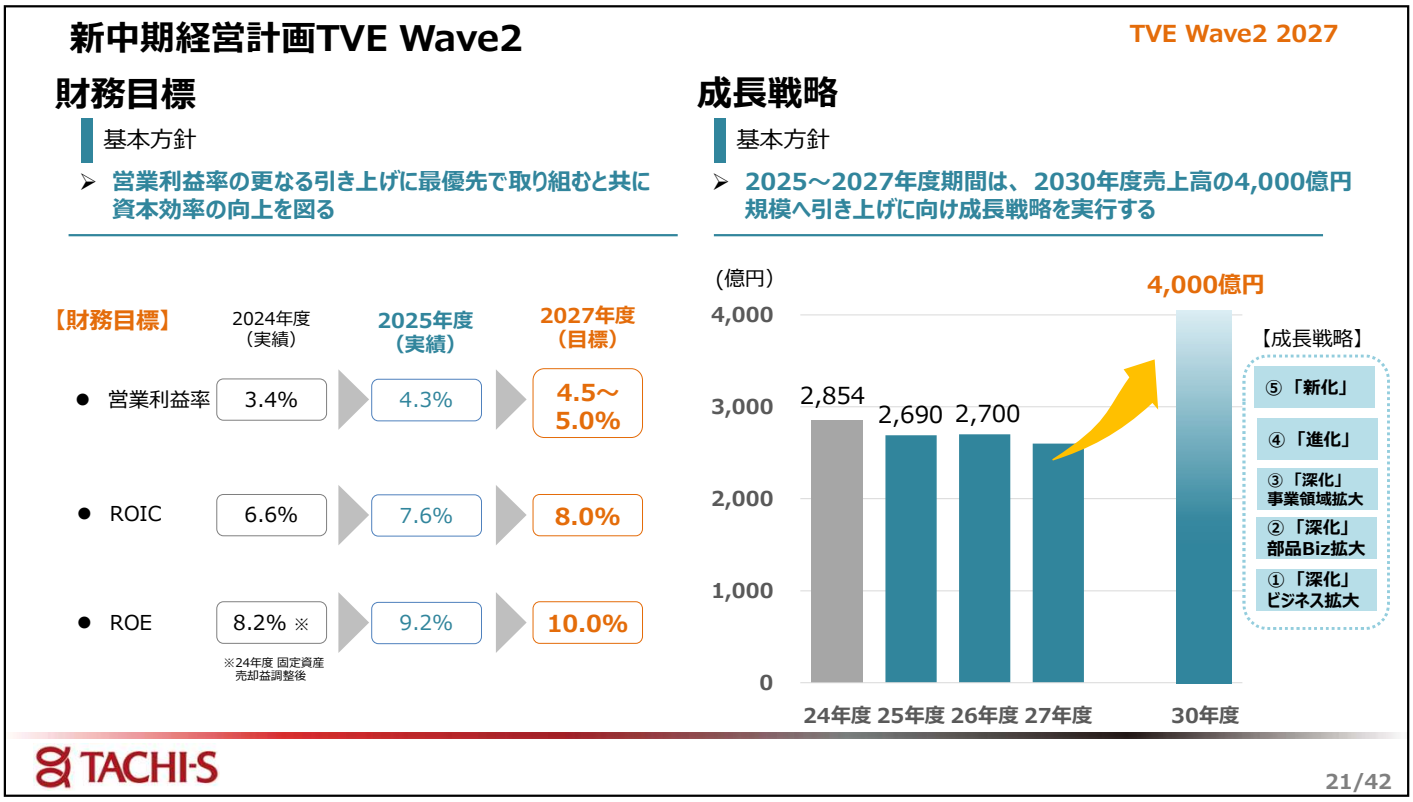
2030ビジョンは「社是 “互譲協調”に沿い、イノベーションにより提供価値を変革し競争力・収益力を高めると同時に社会課題への対応を通じサステイナブル社会の実現に貢献する」と定め、社会的価値と経済的価値創出を両立しつつ、本ビジョン実現に向け活動しております。

また、TVEでは3つの「シンカ」、すなわち、現自動車シート事業である深い「深化」で収益力を上げ、そこで得た収益を進む「進化」、新しい「新化」に投資し、事業ポートフォリオを拡げ、成長させることを狙いとしています。



本スライドは、昨年5月の決算説明会でお示ししたTVE Wave2 2027の戦略概要について、３つのシンカ及び経営基盤の強化の観点でまとめたものです。

本日は、本戦略概要に沿って活動の進捗状況についてご説明いたします。



こちらのスライドは、昨年5月に発表したTVE Wave2 2027の財務目標と成長戦略について、2026年３月期末の結果をプロットしたものです。

お蔭さまで、2027年度の財務目標に向けて、営業利益、ROIC、ROEの各数値は、順調に推移しており、今期2026年度については先にご説明しましたリスクと主要マネジメントポイントを意識した事業運営を着実に進めて参ります。

右に示します、成長戦略の売上高4,000億円規模への拡大に向けて、３つのシンカを軸に、５つの成長戦略を実行し飛躍を図っております。

目次

1．2025年3月期 決算実績

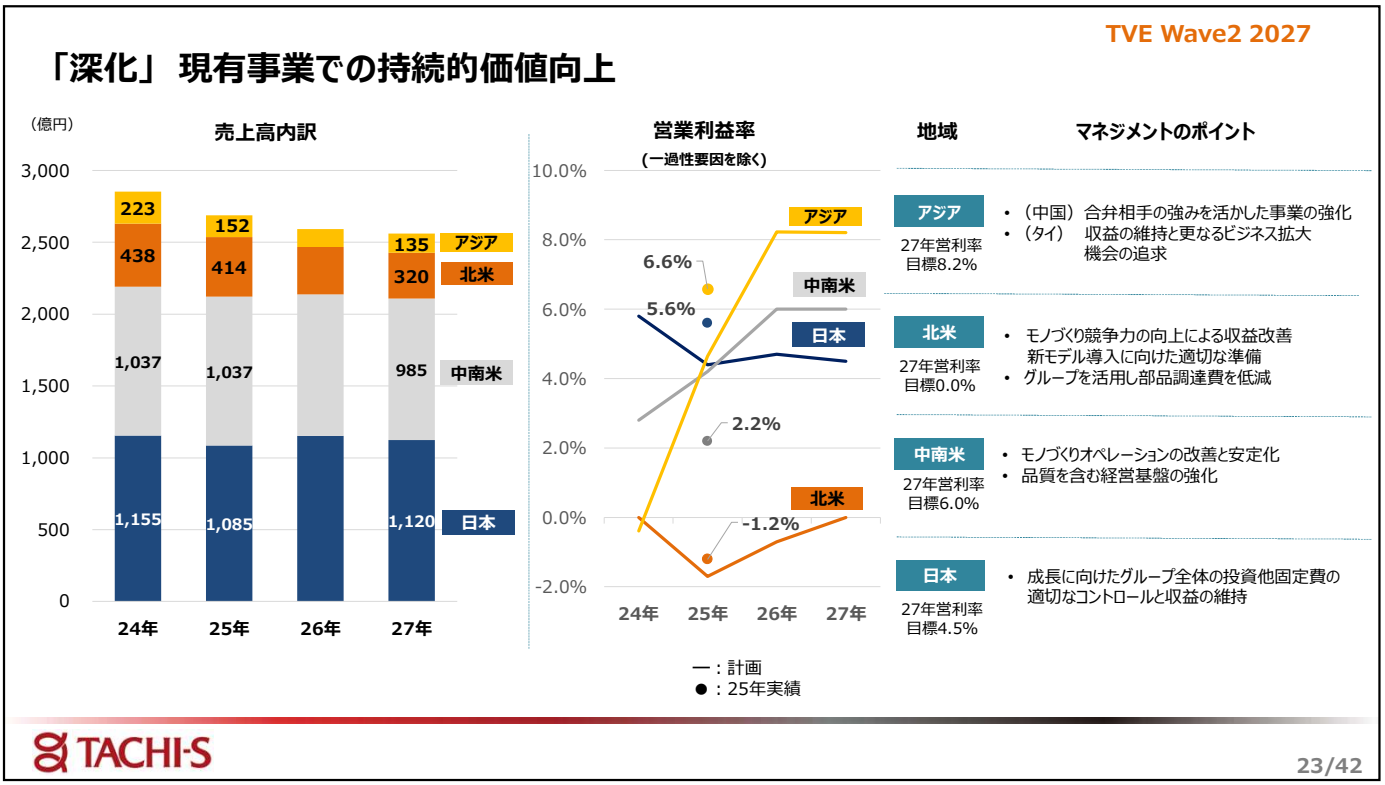
2．2026年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

TVE Wave2 2027リマインド
「深化」 現有事業での持続的価値向上
「深化」 組織営業力の強化2.0
「深化」 モノづくり競争力の強化2.0
「深化」 事業領域の拡大
「進化」
経営基盤の強化

※Transformative Value Evolution

ここからは３つのシンカの内、深い深化と進む進化に関する取り組みの進捗状況をご説明いたします。
最初に深い深化の、現有事業での持続的価値向上よりご説明いたします。



こちらは2024年度から2027年度の売上構成と地域別営業利益率の推移を
示しています。

2025年度から2027年度までの売上高は、現時点の受注状況を鑑みますと約2,600億円前後で横ばいを見込んでいます。
中央の営業利益率グラフでは先ほどご説明申し上げました通り、
中南米は収益改善の刈り取り遅れによって計画値を下回ったものの、他の地域は目標値に向けて順調に推移していることをご理解いただけると思います。

地域ごとのマネジメントのポイントとしましては、
アジアでは、中国において事業再編後の体制の中で、合弁パートナーの強みを活かした事業強化、
またタイでは部品ビジネスの収益維持と更なるビジネス拡大を追求してまいります。

北米では、新規モデル立ち上がりまでの売上高はフラットを見込む中、モノづくり競争力強化による収益改善の取り組みと、新規受注の獲得や新規立ち上げに向けた適切な準備等が鍵となります。

中南米においては、モノづくりオペレーションの改善と安定化を実行し、品質を含む経営基盤を強化しつつ、収益率の引き上げを図ってまいります。

日本では、グローバル本社として成長に向けたグループ全体の投資や、
固定費の適切なコントロールを図り、収益の維持・向上を進めていきます。

目次

1．2025年3月期 決算実績

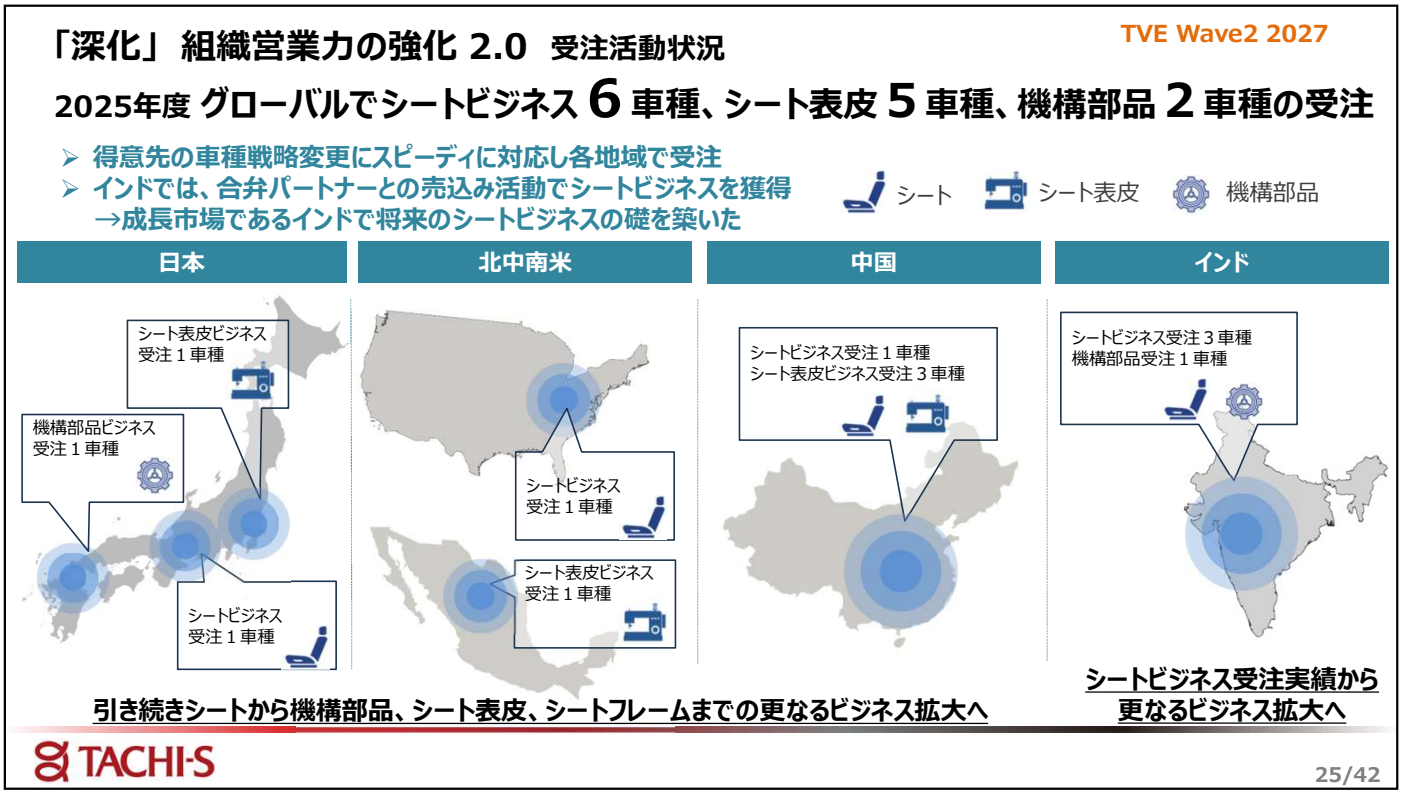
2．2026年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

TVE Wave2 2027リマインド
「深化」現有事業での持続的価値向上
「深化」組織営業力の強化2.0
「深化」モノづくり競争力の強化2.0
「深化」事業領域の拡大
「進化」
経営基盤の強化

※Transformative Value Evolution

次に深い深化である組織営業力の強化2.0の取り組みについてご説明いたします。



組織営業力の強化2.0で進める2030年度の売上4000億円を目指した、グローバルにおける受注活動状況についてご説明いたします。

当社は得意先の車種戦略の変更や短期開発へのシフトにスピーディに対応することで、2025年度も多くのビジネスを受注できました。

グローバルでシートビジネス６車種、シート表皮ビジネス５車種、機構部品ビジネス２車種となっております。

インドにおいては合弁パートナーと一体となった販売促進活動を実施した結果、シートビジネスを複数受注いたしました。

成長市場であるインドでのシートビジネスの受注は、実績を重視するインドのお客様において今後のビジネス拡大の礎を築く大きな一歩になると捉えています。

また日本、北中南米、中国の各地域においても着実に受注活動の成果が出ており、今後もスピード感を持ち、お客様のニーズと期待に対応することで受注拡大を図ってまいります。

目次

1．2025年3月期 決算実績

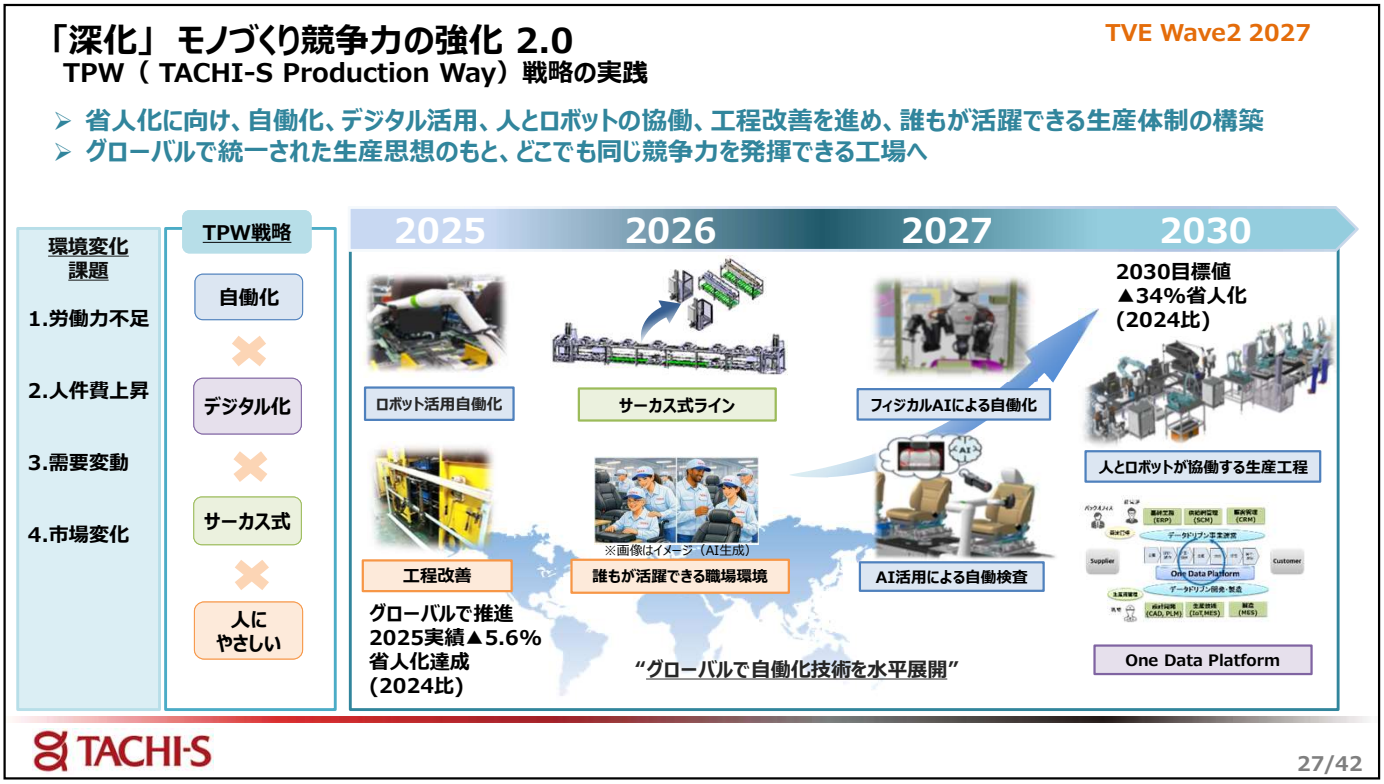
2．2026年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

TVE Wave2 2027リマインド
「深化」 現有事業での持続的価値向上
「深化」 組織営業力の強化2.0
「深化」 モノづくり競争力の強化2.0
「深化」 事業領域の拡大
「進化」
経営基盤の強化

※Transformative Value Evolution

ここからは同じく深い深化の内、モノづくり競争力強化　2.0の取り組みについてご説明いたします。



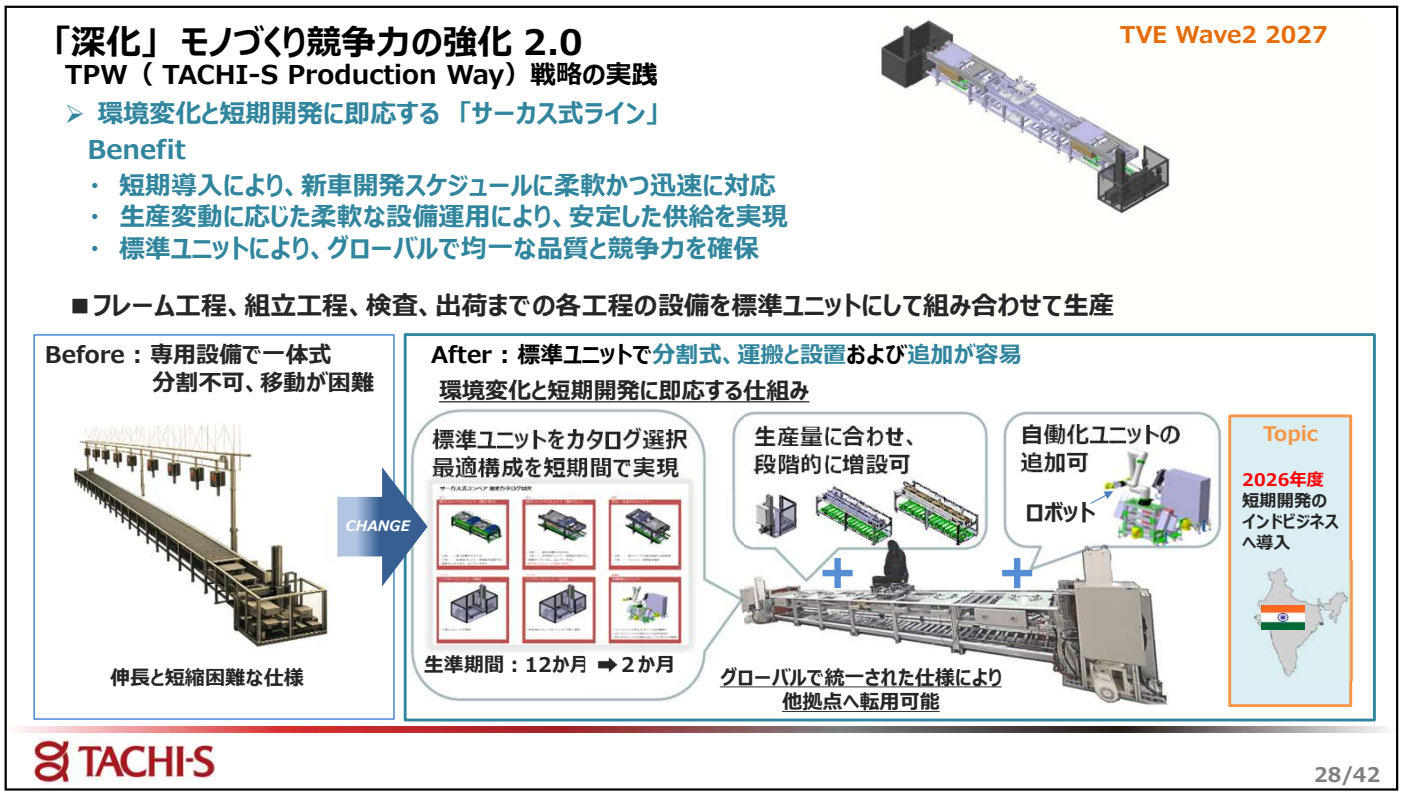
当社は、労働力不足や人件費の上昇、台数変動といった環境変化の中でも、
競争力を維持・強化できる生産体制の確立を狙い、モノづくりを深く、深化させています。

具体的には、当社の生産方式であるTPW（TACHI-S Production Way）に基づき、
「省人化」に向けて、自働化、デジタル技術の活用、人とロボットの協働、工程改善を進めると共に
誰もが活躍できる生産体制の構築を進めています。

その成果として、2025年度はグローバルで2024年比、省人化マイナス5.6%を達成しました。

今後は、2030年に向けて2024年比でマイナス34%の省人化目標達成の実現のために、
AIを活用した自働検査やフィジカルAIによる自働化など、新たな自働化システムの開発・展開を
図っていきます。

加えて、グローバルで統一された生産思想の下、サーカス式ラインやOne Data Platformの整備を
通じ、データ連携を図ることで、全地域で一貫した競争力を発揮できる様、取り組みを図っています。



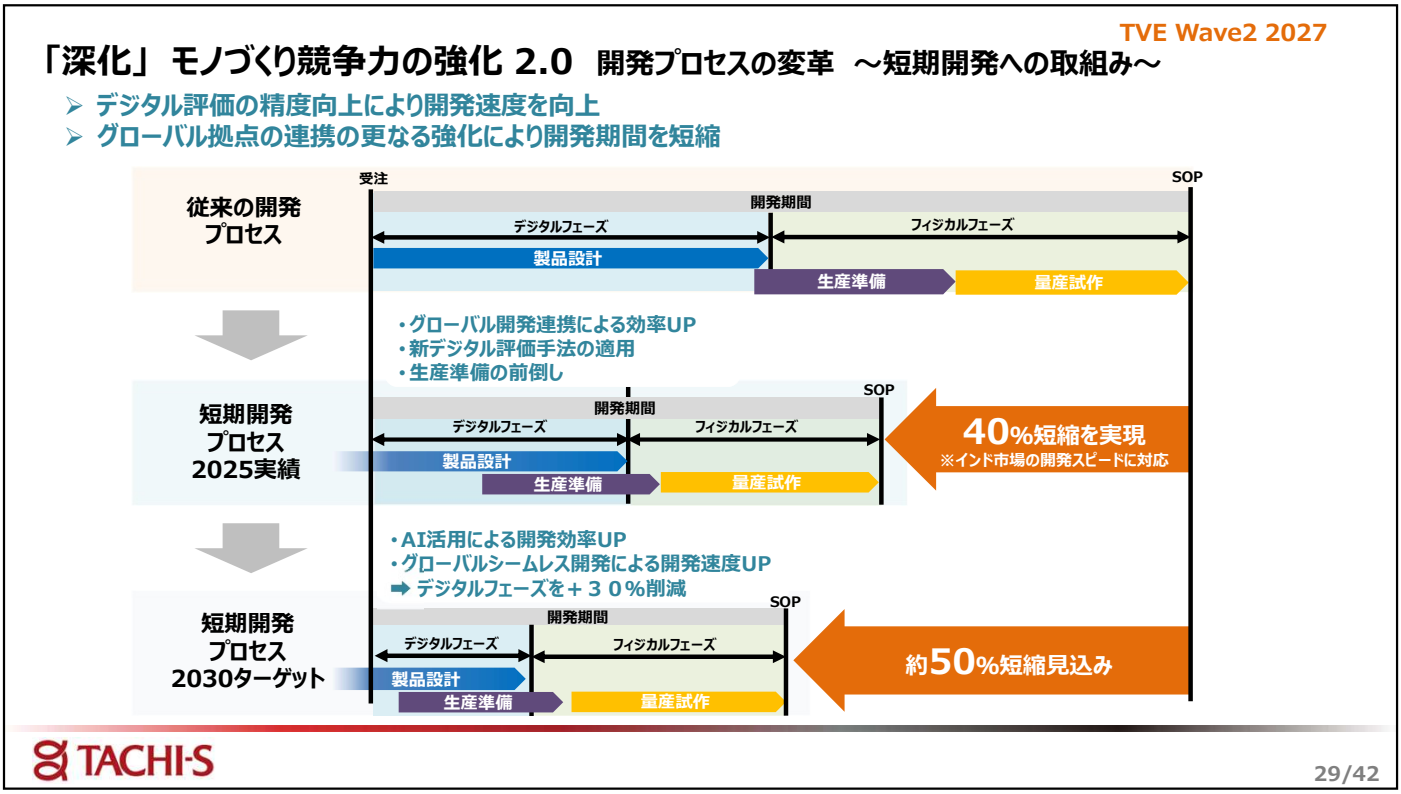
続いて、当社のモノづくりにおける差別化のコアとなる「サーカス式ライン」についてご説明いたします。

本ラインは、生産準備段階では短期開発に即応しつつ、生産立ち上がり後は、台数変動に対し、柔軟に生産能力を組み替えられることを特徴としております。

設備を固定資産ではなく、状況に応じて活用・転用できる経営資源として捉え直しています。
フレーム工程、組立工程、検査、出荷までの各工程の設備を標準ユニットとして組み合わせる考え方で、従来の専用設備による一体式の生産ラインに対し、サーカス式ラインでは標準ユニットで分割し、運搬・設置や追加が容易になります。

また、標準ユニットによってグローバルで均一な品質と競争力を確保し、統一された仕様により他拠点へ転用できる点も特徴です。

生産準備期間についても、従来の12か月から最短2か月へ短縮することができます。
本ラインは、インドでの新規ビジネス獲得に貢献し、同国での2026年度からの導入を皮切りに、順次グローバルへ展開していく計画です。



ご覧いただいているスライドは、モノづくり競争力の強化2.0の内、開発プロセスの変革を通じた、短期開発への取り組みを示すものです。

従来の開発プロセスに対し、青色で示しておりますデジタルフェーズを中心に、
グローバル連携による開発効率向上と、新たなデジタル評価手法の適用、
また生産準備の更なる前倒しを図ることで、短期開発に取り組んできました。
短期開発が求められるモデルを中心に本プロセスの適用を進め、
その結果、開発期間を2024年比で40%短縮しております。

これによって、前頁でご紹介した取り組みと併せ、
短期開発・短期立ち上げが求められるインド市場でのシートビジネスの受注につなげております。

2030年度に向けてはデジタルフェーズで30%の追加削減を計画し、開発プロセス全体では
2024年度比50%の短縮に取り組んでまいります。

目次

1．2025年3月期 決算実績

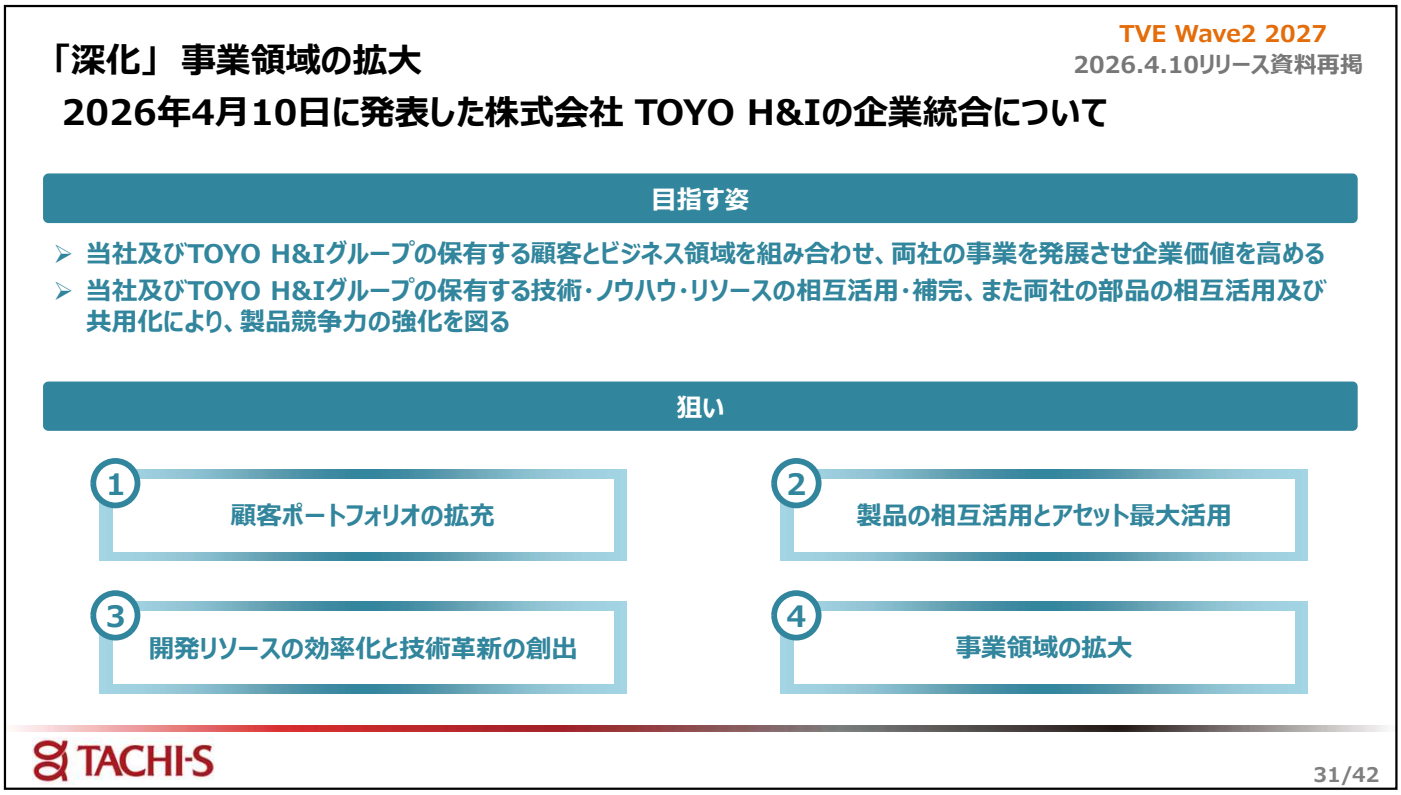
2．2026年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

TVE Wave2 2027リマインド
「深化」 現有事業での持続的価値向上
「深化」 組織営業力の強化2.0
「深化」 モノづくり競争力の強化2.0
「深化」 事業領域の拡大
「進化」
経営基盤の強化

※Transformative Value Evolution

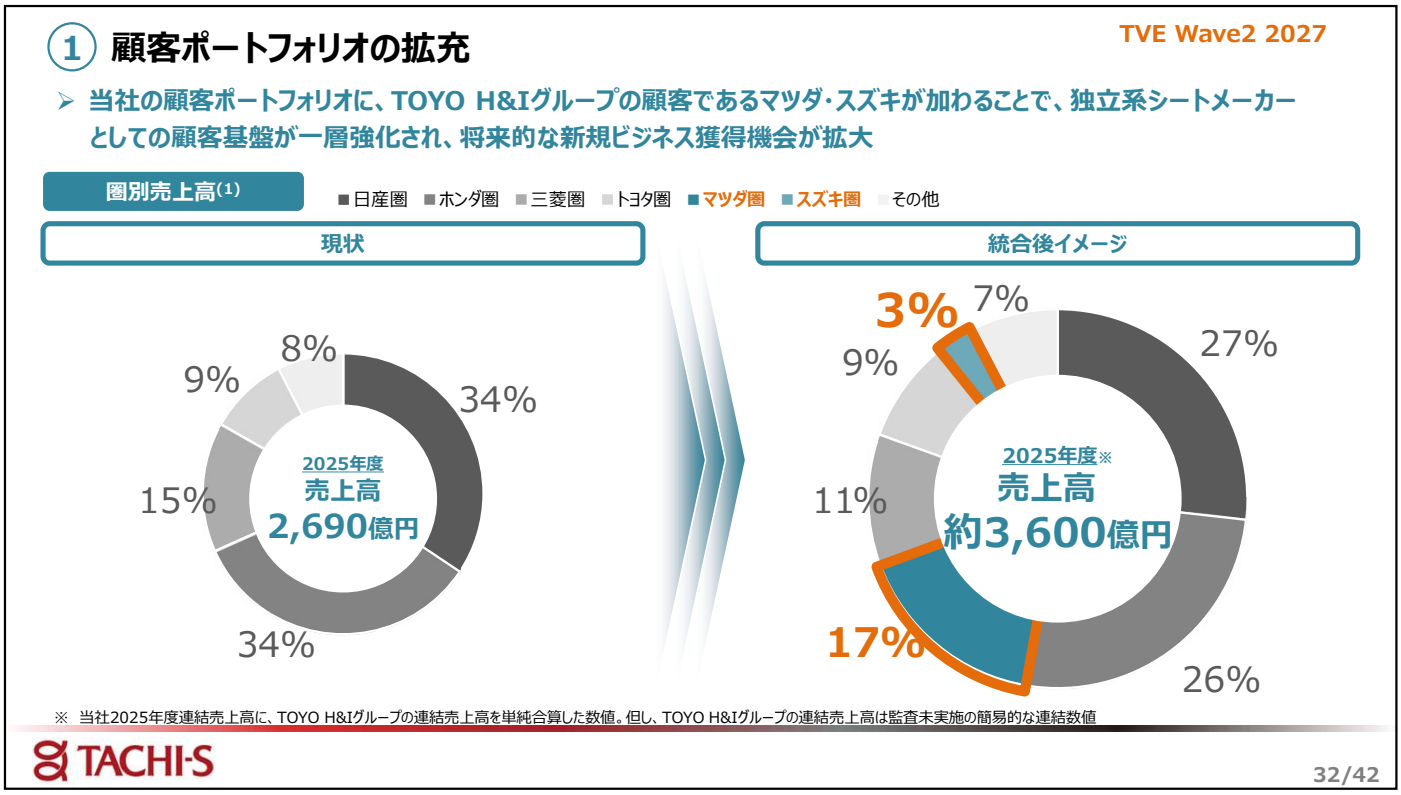
続いて、深い深化の事業領域の拡大についてご説明いたします。



ご覧いただいているのは、4月10日に公表いたしましたTOYO H&Iグループとの企業統合によって目指す姿と狙いとなります。

本統合により目指す姿は、両社の保有する顧客とビジネス領域を組み合わせ、
両社の事業の発展を通じ企業価値を高めること。
また、両社の保有する技術・ノウハウ・リソースの相互活用・相互補完や部品の相互活用・共用化により、商品競争力を強化し、より付加価値の高い提案をお客様に提供していくことです。

狙いとしては、
顧客ポートフォリオの拡充、
製品の相互活用とアセット最大活用、
開発リソースの効率化と技術革新の創出、
事業領域の拡大
の４つを想定しています。それぞれについて次頁以降でご説明いたします。



統合の狙いの一つ目は、「顧客ポートフォリオの拡充」です。
当社が現在お取引している日産やホンダ、三菱などに、TOYO H&Iグループの主要顧客であるマツダやスズキ向けビジネスが加わることにより、独立系シートメーカーとしてビジネス獲得基盤が強化されます。

ご参考までに今回の企業統合によって、2025年度の売上高を単純合算した場合、約3,600億円となります。

② 製品の相互活用とアセット最大活用

TVE Wave2 2027

- 両社が保有するシートデバイスの相互活用により、製品ラインナップを補完し合うことで、提案力を向上
- ドアトリムでの樹脂成形技術の手の内化により、シート+内装部品領域で開発力を強化
- フットプリントにおける国や地域の重複が無く、双方のアセットをグローバルで最大活用したシナジーが期待できる

グローバルフットプリント（連結対象会社）

	国内					海外				
	東北	関東	中部	近畿 中国	九州	米国	中南米	中国	ハンガリー	アセアン
TACHI-S	○	○	○		○	○	○ (メキシコ・ブラジル)	○		○ (タイ)
TOYO SEAT				○		○		○	○	○ (フィリピン)
NANJO				○			○ (メキシコ)			

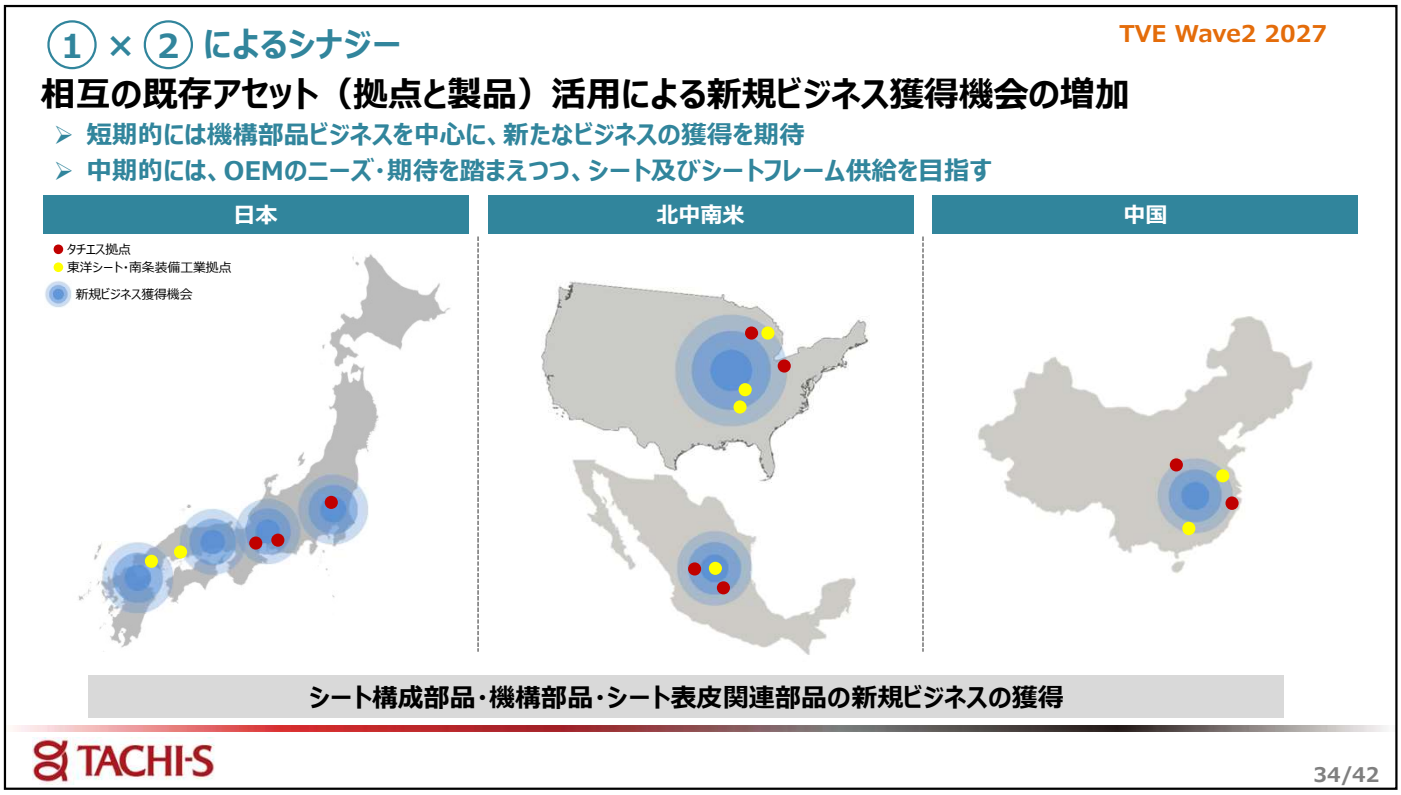
TACHI-S

33/42

２つ目の狙いである「製品の相互活用とアセット最大活用」においては、
シートデバイスのラインナップが補完され、またドアトリムなどを加えた形でシートプラス内装部品へと
領域を拡げた提案が可能となります。

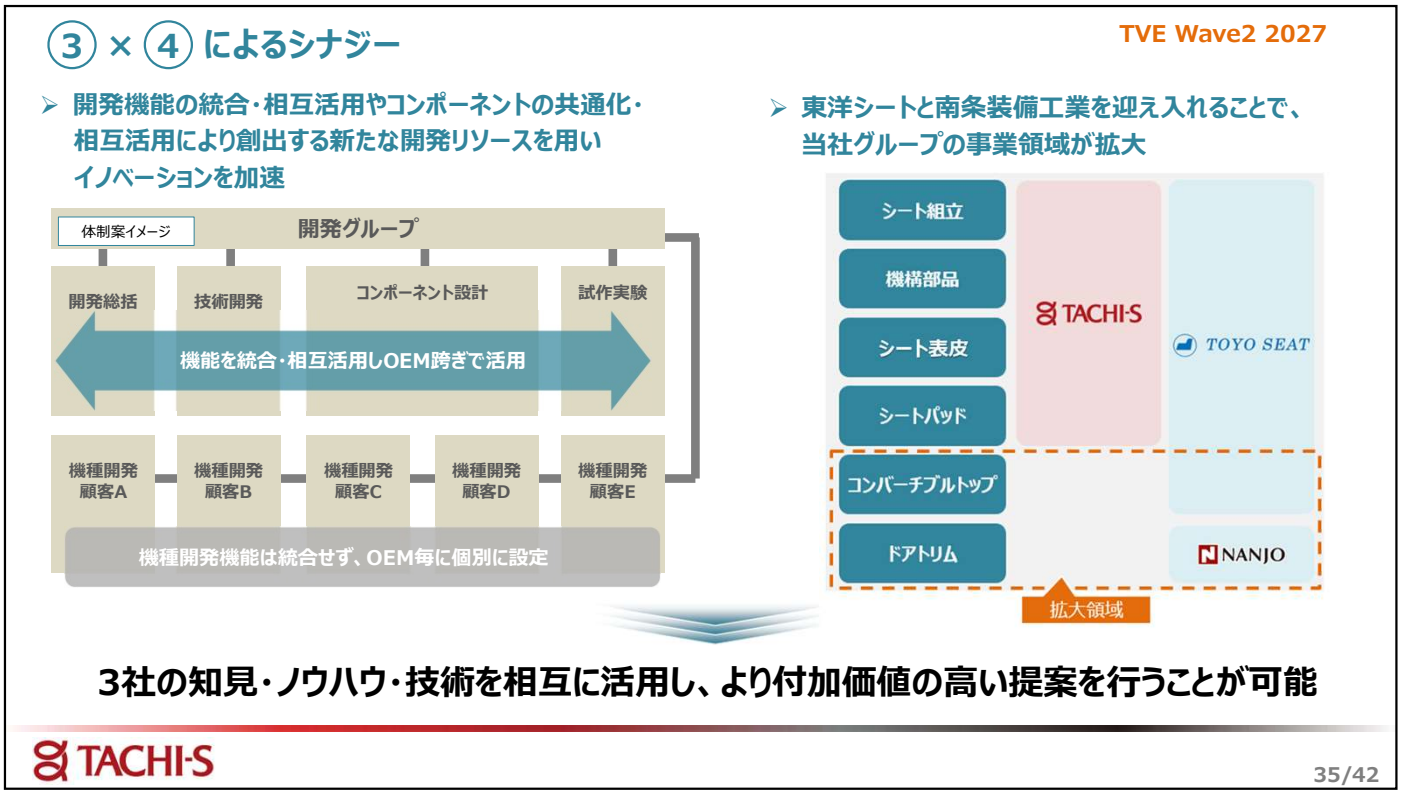
保有アセット面では、シート表皮、ウレタン発泡、ヘッドレスト一体発泡に加え、樹脂成形が追加され
これらを相互に最大活用することで収益力向上を図っていきます

また、グローバルフットプリントにおいても下段の表が示す通り、一部の地域を除き国内外において
重複がなく、相互補完体制を築ける関係性にあります。



顧客ポートフォリオの拡充と相互の既存アセットを活用することで、日本、北中南米、中国で新規ビジネス獲得機会の増加を見込んでいます。

短期的には、機構部品を中心に新たなビジネスの獲得を目指しつつ、中期的にはお客様の戦略の理解を通じ、ニーズ・期待に応える形でシート及び、シートフレーム供給へとビジネスを拡げていきたいと思っております。



「開発リソースの効率化と技術革新の創出」においては、
お客様と共に創る共創活動を通じ、ニーズや期待に応えられる様、機種開発はお客様ごとの個別体制を維持します。
それ以外の機能はお客様跨ぎで統合・相互活用することで開発体制を効率化し、
そこで生み出される新たなリソースをイノベーションの加速に活用していきたいと思っています。

この様な形で生まれる開発リソースをさらにタチエス、TOYOシート、南条装備の３社が
これまで培ってきた知見、ノウハウ、技術を相互活用することで、個社では実現できなかった技術革新を創出し、より付加価値の高い提案を行える様にしていきます。

目次

1．2025年3月期 決算実績

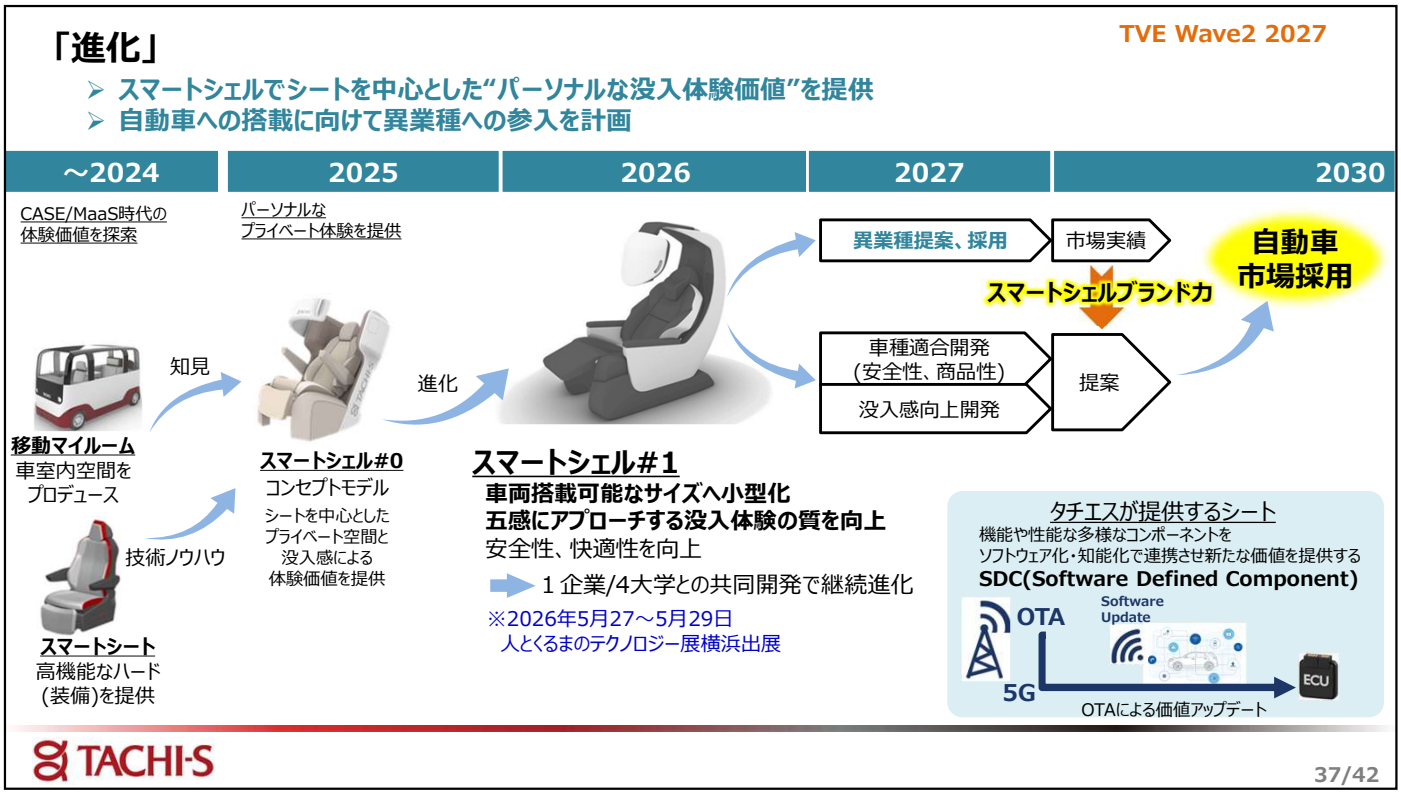
2．2026年3月期 業績見通し

3．中期経営計画（TVE※）の進捗

TVE Wave2 2027リマインド
「深化」 現有事業での持続的価値向上
「深化」 組織営業力の強化2.0
「深化」 モノづくり競争力の強化2.0
「深化」 事業領域の拡大
「進化」
経営基盤の強化

※Transformative Value Evolution

次に、３つのシンカの内、進む「進化」についてご説明します。



今後増加すると想定される移動中のスキマ時間を有効活用していただくため、
当社はシートを中心とした“パーソナルな没入体験価値”を提供することで、自動運転におけるニーズと期待に応えていきたいと考えております。

われわれはこの価値提供製品をスマートシェルと名付け、昨年5月の人とクルマのテクノロジー展で発表しました。

その後も、自動車搭載に向けた小型化、安全性や、快適性向上に向けたハード部分の開発と共に、没入体験の質を向上させる、５感にアプローチするソフトの開発を進め、スマートシェル＃1へ進化させております。
現在、更なる進化に向け1企業、4つの大学と共同開発を実施し商品化を加速しております。

また、シートは様々なデバイスや装備に加え、快適性や安全性、座り心地といった多様なものが求められており、その実現のために多種のコンポーネントが組み合わさった部品になっています。
当社はこれをSoftware Defined Component (SDC) と定義し、Over The Air (OTA) による価値のアップデートを可能にする技術開発に取り組んでいます。

開発したスマートシェルの自動車採用に向けて、この「新しい価値」の市場評価や、市場実績を得て、スマートシェルのブランド力を築きあげていきます。
その第一歩として自動車以外の異業種での採用について話しを進めています。

最新のスマートシェル＃1は明日5/27から始まる「人とくるまのテクノロジー展 2026　YOKOHAMA」に出展しています。ご来場の際には、是非当社ブースにお立ち寄りいただき、没入感をご体験いただけますと幸いです。

目次

1．2025年3月期 決算実績

2．2026年3月期 業績見通し

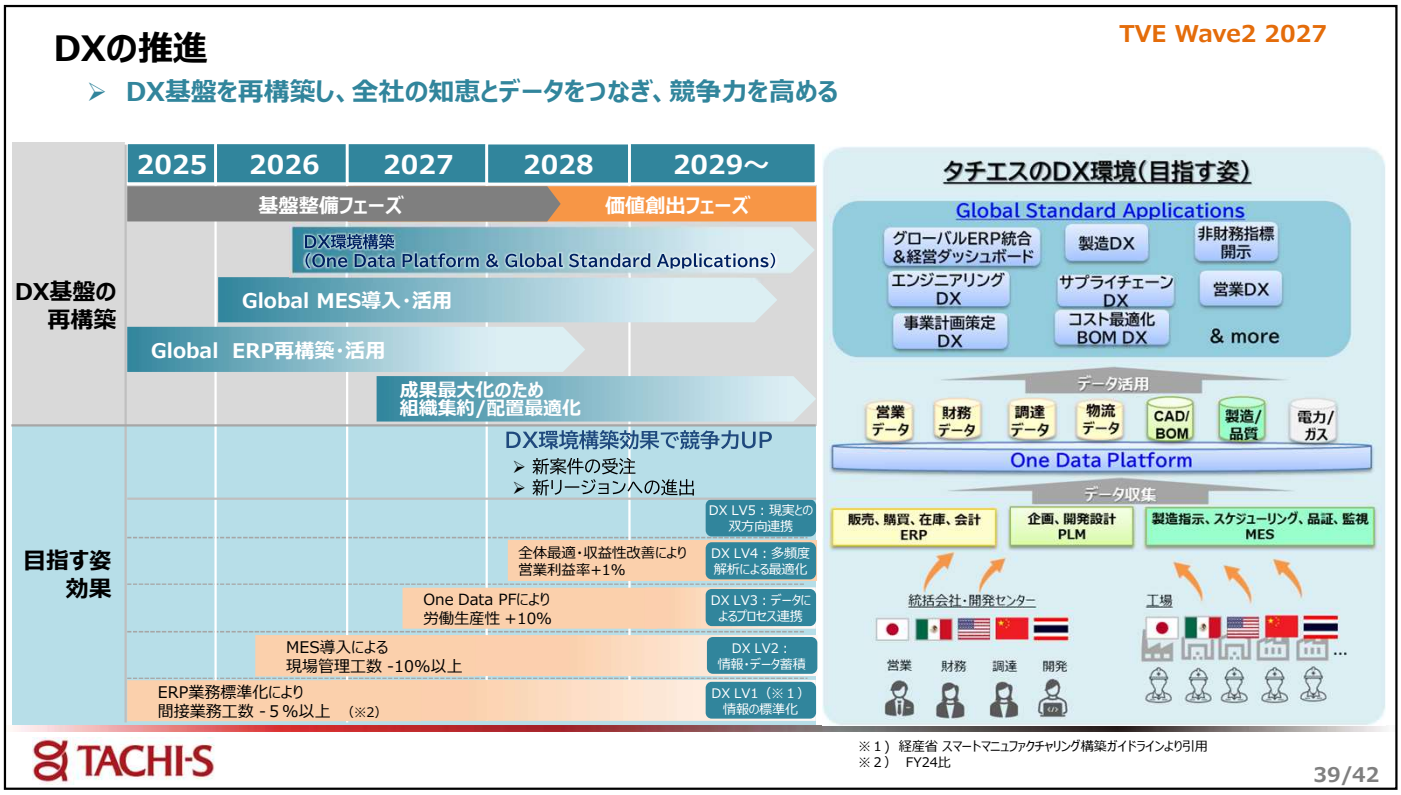
3．中期経営計画（TVE※）の進捗

TVE Wave2 2027リマインド
「深化」 現有事業での持続的価値向上
「深化」 組織営業力の強化2.0
「深化」 モノづくり競争力の強化2.0
「深化」 事業領域の拡大
「進化」
経営基盤の強化

※Transformative Value Evolution

TACHI-S

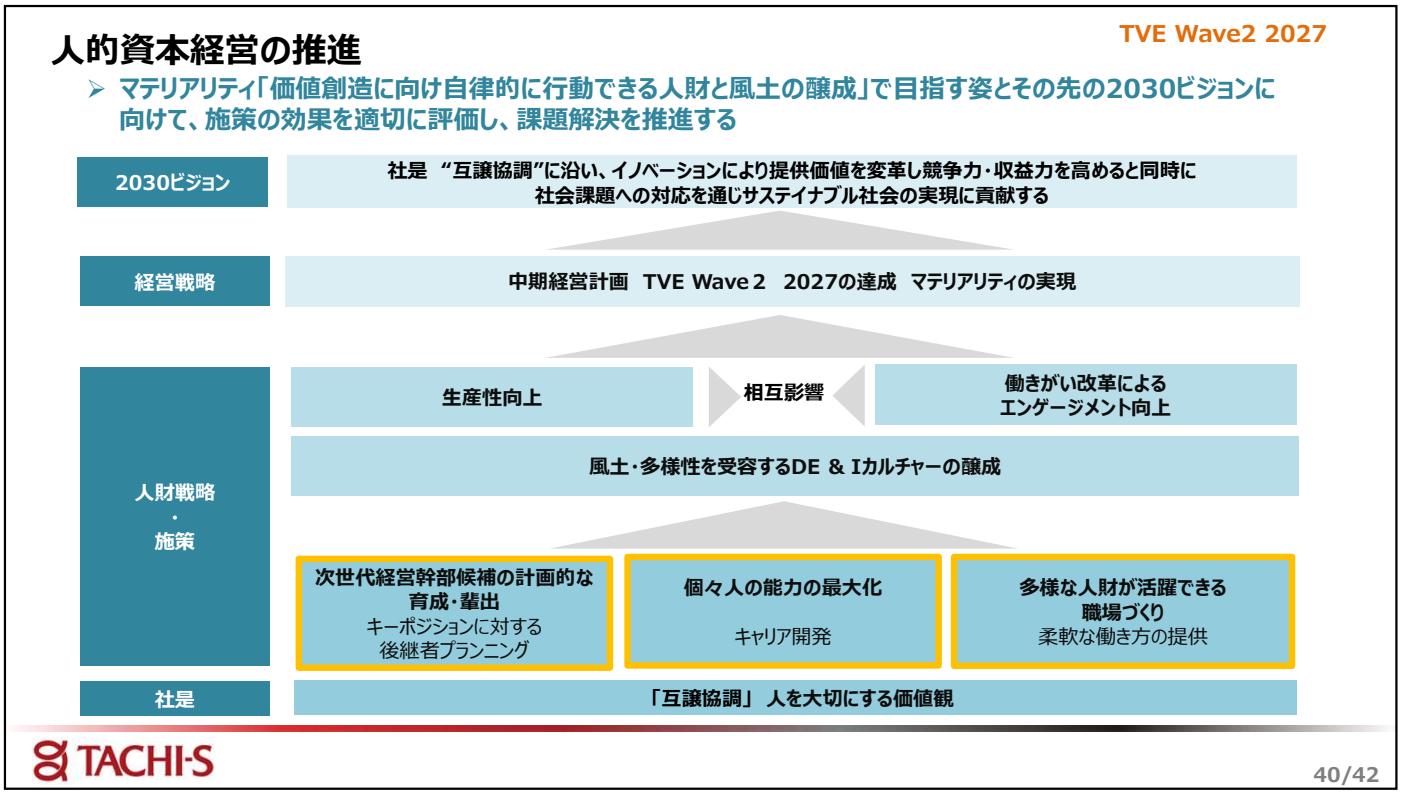
次に　経営基盤の強化の活動として、Dxの推進、人的資本経営の推進とサステイナブル社会実現への貢献の取り組みについてご紹介します。



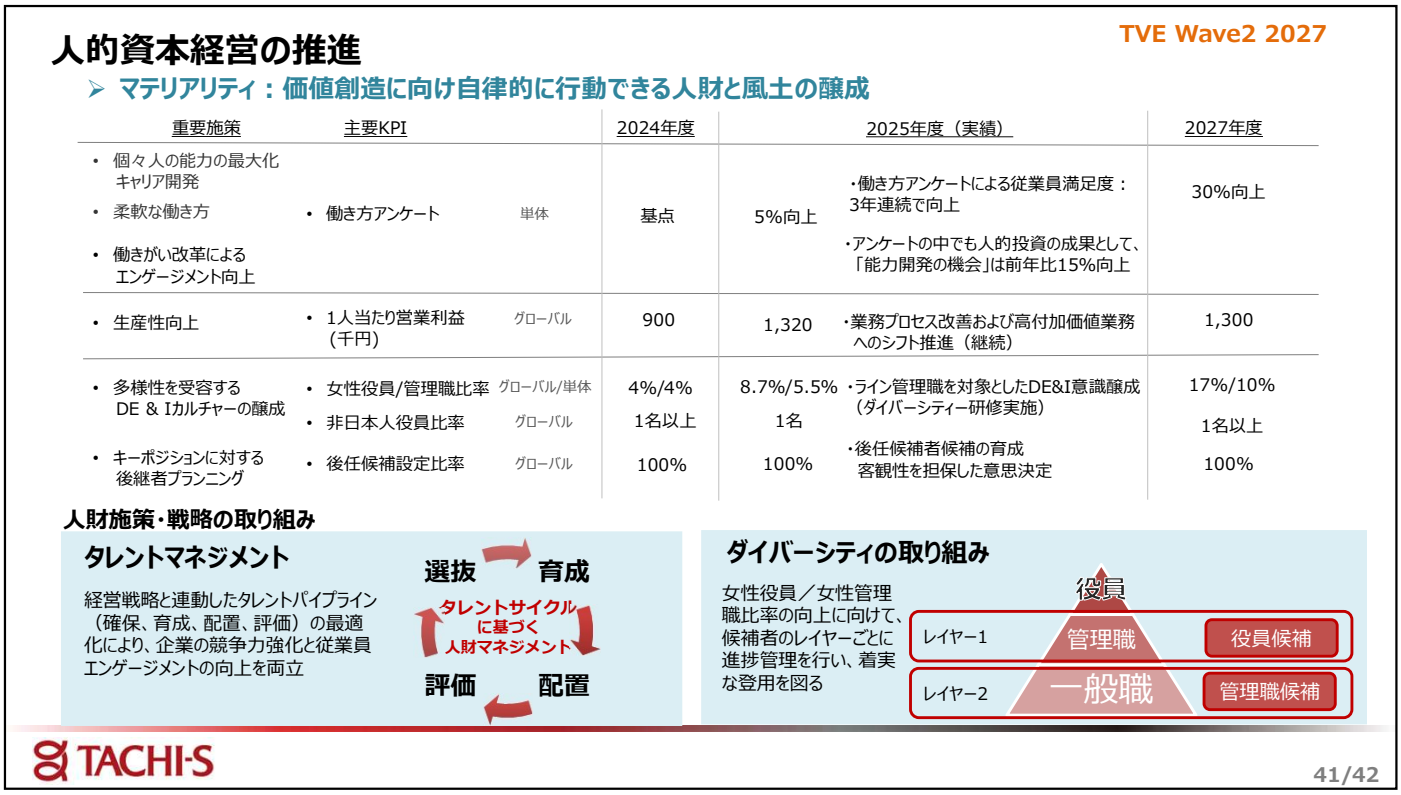
当社のDXは、右側の「目指す姿」でお示ししております通り、全社の知恵とデータを繋ぎ、競争力をより高めていくことを狙いとしています。

この実現に向けては、左下に示す効果を段階的に出しながら、着実にDXレベルを向上させつつ、左上のDX基盤の再構築を図る中で、グローバル拠点での導入と活用を進めていきます。
2025年度からはERPの再構築を開始しました。2026年度はMESの導入を進めております。
さらにデータ集約基盤であるOne Data Platformとグローバルでのスタンダードアプリケーションの活用によりDX環境を構築し、現状の「基盤整備フェーズ」から、「価値創出フェーズ」へと進化させていきます。

これらの取り組みは、TVE Wave2で目指す2030年の売上、収益目標達成に向けた競争力向上の基盤となり、2028年度からは新規ビジネスの受注や新たな拠点での事業基盤構築への貢献を見込んでいます。あわせて、当社の一人ひとりがデジタルに精通する人財となっていくと共に、成果の最大化のための組織の集約や配置の最適化も同時に進めて参ります。



次に、当社では、人財戦略と経営戦略を連動させ、中期経営計画の達成に取り組んでいます。
人的資本経営はマテリアリティの１つ、「自律的に価値創造できる人財と風土の醸成」を
支えるものであり、社是「互譲協調」に基づく人を大切にする価値観を根底としています。
このもとで人財育成・多様な人財活躍の推進と生産性向上・働きがい向上を両立し、
マテリアリティ対応を通じて2030ビジョンの実現を目指しています。



人的資本経営の具体的なKPIについては御覧の通りとなっております。

なお生産性向上のKPIとして設定している1人当たり営業利益につきましては、2025年度の実績は132万円となり、2027年度目標を既に達成しておりますが、
今後もその水準を維持できるよう取り組み、このほかのKPIも含めてTVE Wave2 2027で目指す姿に向けて更なる注力を続けてまいります。

また、下段に示しておりますのは、当社のタレントマネジメントとダイバーシティの具体的な取組内容でございます。

これら人財戦略、施策の理解向上に向け、定期的な発信に加え、トップマネジメントから事業報告会などの機会を通じて説明を行い、会社と社員が同じ目線で成長できる様、取り組んでおります。

サステイナブル社会実現への貢献

TVE Wave2 2027

➢ 気候変動や人権に配慮した事業活動を推進し受注機会の創出とサステイナブル社会の実現への貢献を両立する

	2025実績	2026取組み	2027	2030
E 環境	■カーボンニュートラル ・CO_2削減:▲27%の達成（第三者検証受審前） 目標:▲27%（スコープ1,2連結総排出量 FY19比） ・仕入先とのCO2削減面談を実施（スコープ３） ■資源循環 ・廃棄樹脂からの製品材料化トライアル	CO_2削減目標▲31% ・省エネ活動継続　・各社再エネ調達開始 ・製品ライフサイクルCO_2を削減 →物流のCO_2 →サプライチェーンのCO_2 →製品素材のCO_2 ・太陽光発電増設 	▲36%	▲50%
S 社会	■サプライチェーンのESG取組み推進 ・各社のESG自己評価結果を分析 ■地域社会貢献 ・自治体との協議、グループ各社による寄付活動	・サプライヤーのカーボンニュートラル、人権を含むESG取組み改善支援 ・地域活性化活動に貢献しグループのプレゼンスを向上		
G ガバナンス	■非財務情報開示 ・統合報告書発行準備 ■ESG外部評価 ・FTSE Blossom Japan Index選定	・統合報告書発行 2026年度下期 ・評価機関への回答の質向上 →FTSE ・CDP ・エコバディス		

TACHI-S

次に、サステイナブル社会実現への貢献の代表的な取り組みをESGの観点で整理したものがこちらになります。

環境面では2025年度に当社グループのCO_2排出量を計画通り2019年度比で27%削減しました。
2026年度は31%削減に取り組んでまいります。
また、スコープ3においては物流上のCO_2算出の精度向上に向け、サプライヤーとの面談を行い当社の事例紹介やアドバイスを実施しております。
リサイクル材料や植物由来原料を活用した製品開発も進め、素材におけるCO_2削減にも引き続き取り組んでいきます。

社会面では、2025年のESG取組み評価結果を元にサプライチェーンの改善支援を開始する予定です。
また、タチエス本社として地元自治体の賑わい創出への貢献など、より地域社会との協働を図ってまいります。

ガバナンス面では、投資家の方や各方面からご要望をいただいていた統合報告書の準備を進めており、本年下期に発行を予定しております。
これを機にESGの外部評価向上への取り組みも強化していきます。

これらの活動を通じ、2030年には新たなビジネス受注機会の創出と安定した人材採用、
そして皆様の期待により応えられる情報開示を行い、事業成長とサステイナブル社会の実現に向け貢献してまいります。

“座る”を追求し人と地球を支える

TACHI-S

Global Seat System Creator

本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来に関する見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、不確実性やリスクを含んでおります。

したがって、実際の結果は様々な要因によって見通しと異なる可能性がありうることをご了承下さい。

2026年３月期 決算実績及び2027年3月期の業績見通しと、
中計TVE Wave2 2027 の進捗説明は以上となります。

当社タチエスは、毎年発生する様々な事業環境変化に対し、引き続き柔軟かつスピーディに対応し、
グローバルで目指す成長と収益性を確実に達成できる様、取り組んでまいります。

引き続き皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。
ご清聴いただき誠にありがとうございました。

TVE Wave 2　2027　マテリアリティと非財務KPI

➢ TVE Wave 2 2027では、財務パフォーマンスと共に非財務KPIについて進捗をマネジメントしていく

マテリアリティ	領域	重要項目（KPI）		2024レベル	2025実績	2027目標	2030目標
①イノベーションと事業を通じた社会課題への対応(価値の提供)	イノベーション	社会課題対応の開発費増加率 ※	単体	• FY19比＋8%	**・FY19比 ＋12%**	• FY19比＋90%	• FY19比＋120%
		社外パートナーとの協働活動数	単体	• 共同開発・研究＆業務委託契約　3件	**・5件 スマートシェル開発にて 1企業/4大学と協業開始**	• 共同開発・研究＆業務委託契約　5件	• 共同開発・研究＆業務委託契約　5件
	モノづくり戦略	グローバル対象拠点の省人化率	グローバル	• 労働人口減少、労務費高騰 • デジタル技術・IoTの活用→生産プロセス自働化・最適化が必要	**・省人化率 ▲5.6%**	• 省人化率 ▲15% • FY24比 • 対象拠点 TSJ/TSM/SETEX OHIO	• 省人化率 ▲34% • FY24比 • 対象拠点 TSJ/TSM/SETEX OHIO
	デジタル変革	ITリテラシー向上	単体	• 教育開始	**・間接従業員　100%**	• 間接従業員 50%	• 間接従業員 100%
		デジタル人財の人数	グローバル	• –	**・候補者 76名創出**	• 50名以上（単体）	• 100名以上（グローバル）
②サステイナブル社会の実現への貢献と信頼に基づき選ばれ続ける企業になるための真摯な事業運営	環境	CO_2総排出削減率 ｽｺｰﾌﾟ1+2	グローバル	• FY19比▲17%	**・19年度▲27%** (第三者検証前の速報値)	• FY19比▲36%	• FY19比▲50%
	人権	人権アセスメントスコア	グローバル	• C～Bレベル（見込み）	**・Cレベル** (アセスメントを受審しレベル確定)	• Bレベル以上	• Aレベル
③価値創造に向け自律的に行動できる人財と風土の醸成	人財育成・タレントマネジメント	多様性を受容する DE & Iカルチャーの醸成 女性役員/管理職比率	単体	• 4%/4%	**・女性役員　8.7%　/ ・女性管理職 5.5%**	• 17%/10%	• 30%/15%
	従業員の働きがい向上	働き方アンケート	単体	• 基点	**・5%向上**	• 30%向上	• 47%向上

※基準年をFY20からFY19へ変更、増加率を3年平均値に見直し(2026.5.26)

TACHI-S

25年度下期 主なトピックス

経営・事業

日本	子会社の異動を伴う株式の取得及び特定子会社の異動に関するお知らせ	ニュースリリース

受賞

中国	2025年度 優秀協力企業賞を受賞　（鄭州泰新）	ニュースリリース
中国	2025年度　東風日産最優秀品質パフォーマンス賞受賞 （鄭州東風李爾泰新）	ニュースリリース
中国	2025年度 東風日産最優秀サプライチェーンパートナー賞を受賞 （大連東風李爾泰極愛思）	ニュースリリース

出展・イベント

日本	本社/技術・モノづくりセンター及び武蔵工場 見学説明会開催	ニュースリリース

本社/技術・モノづくりセンター及び武蔵工場 見学説明会開催

東風日産最優秀品質パフォーマンス賞受賞
（鄭州東風李爾泰新）

サステイナビリティ

日本	青梅羽村企業連携社会貢献プロジェクトへの参画
日本	NPO法人「海外に子ども用車椅子を送る会」への防災ヘルメット寄贈
日本	副産肥料の有効活用への取り組み（TF-METAL）
日本	アップサイクル製品の販売（NuiTecCorporation）
日本	フードロスへの取り組み（タチエスサービス）
中南米	障害者支援施設への寄付活動（TACHI-S Mexico）
中南米	老人ホーム・児童養護施設・母子支援施設への保存食品の寄贈 （TACHI-S Brasil）
中南米	チャリティマラソン参加による犬用フード寄付活動（TF-METAL Mexico）
中南米	メキシコ対がん協会へのプラスチックキャップ寄付（SETEX Mexico）
中国	貧困世帯および高齢者への生活支援（泰極愛思（中国））
東南アジア	タイ南部の水害への寄付（TAST）
東南アジア	「子供の日」にあわせた学校への寄付活動（TAST）

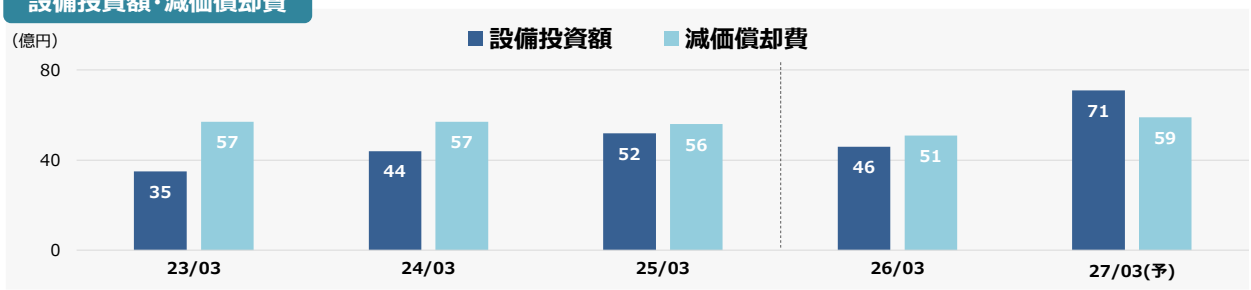
犬用フード寄付活動
（TF-METAL Mexico）

貧困世帯・高齢者への生活支援
（泰極愛思（中国））

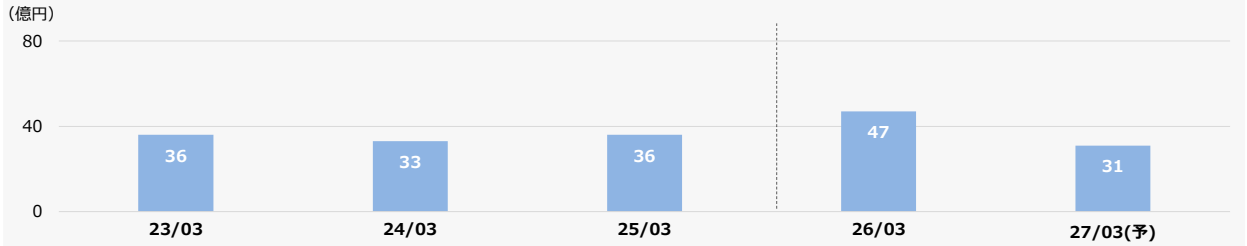
タイ南部の水害への寄付
（TAST）

設備投資額・減価償却費・研究開発費（連結）

設備投資額・減価償却費



研究開発費



25年度 新規・マイナーモデルチェンジ車種

	2025									2026		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
Japan			N-ONE e:	DYNA/DUTRO (M)		OUT LANDER (M) N-WGN(M)	SKYLINE (M) ECLIPSE CROSS(M) N-ONE(M)	NV200 VANETTE (M)	ARIYA (M)		ZR-V(M)	Super-ONE N-VAN (M)
U.S.A					INTEGRA (M)							
Mexico				KICKS (M)			SENTRA (M)					VERSA (M)
China ASEAN			奇瑞 JETOUR X90 (M)	奇瑞 JETOUR 山海L7Plus (M)	奇瑞JETOUR 山海L9（M） I.T.BOX汽車 海馬EX00		ALTIMA（M） 鄭州日産 鋭旗7(M) X-TRAIL（M） BYD 方程豹５（M） 上海汽車 智己S31L	SYLPHY		NAVARA (M) NX8	Frontier Pro PHEV	上海汽車 IM LS8

TACHI-S

●NISSAN ●HONDA/ACURA ●MITSUBISHI ●TOYOTA/HINO ●OTHER

(M)：マイナーチェンジ Model Year

為替の推移

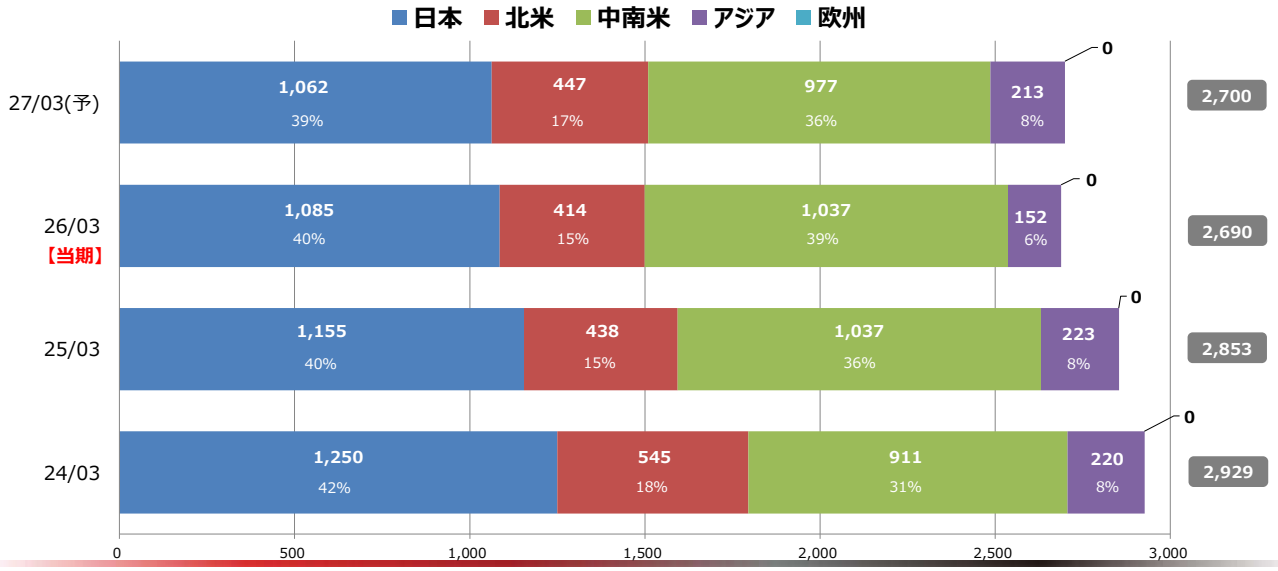
（単位：円）

	23/03	24/03	25/03	26/03	27/03(予)
USD	135.07	143.83	150.88	150.23	152.00
MXN	6.50	7.91	8.31	7.76	8.20
RMB	19.42	19.79	20.98	20.81	22.00

売上高の推移（連結）ー所在地別 売上高ー

所在地別売上高

単位：億円
（億円未満切捨て）

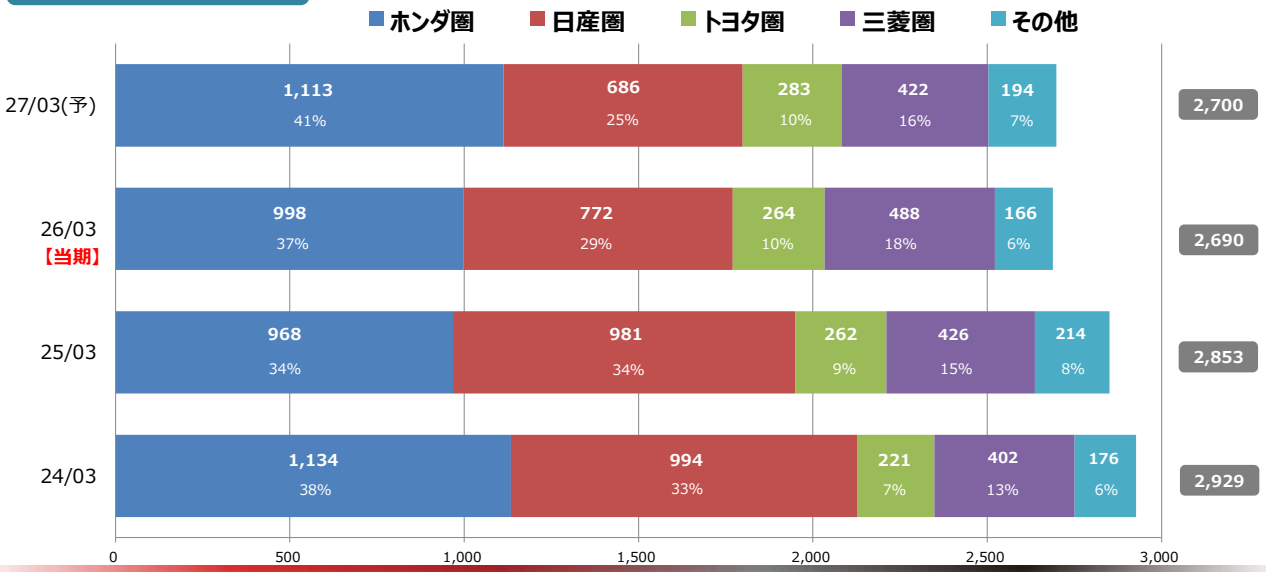


TACHI-S

売上高の推移（連結）ー圏別 売上高ー

単位：億円
（億円未満切捨て）

圏別売上高

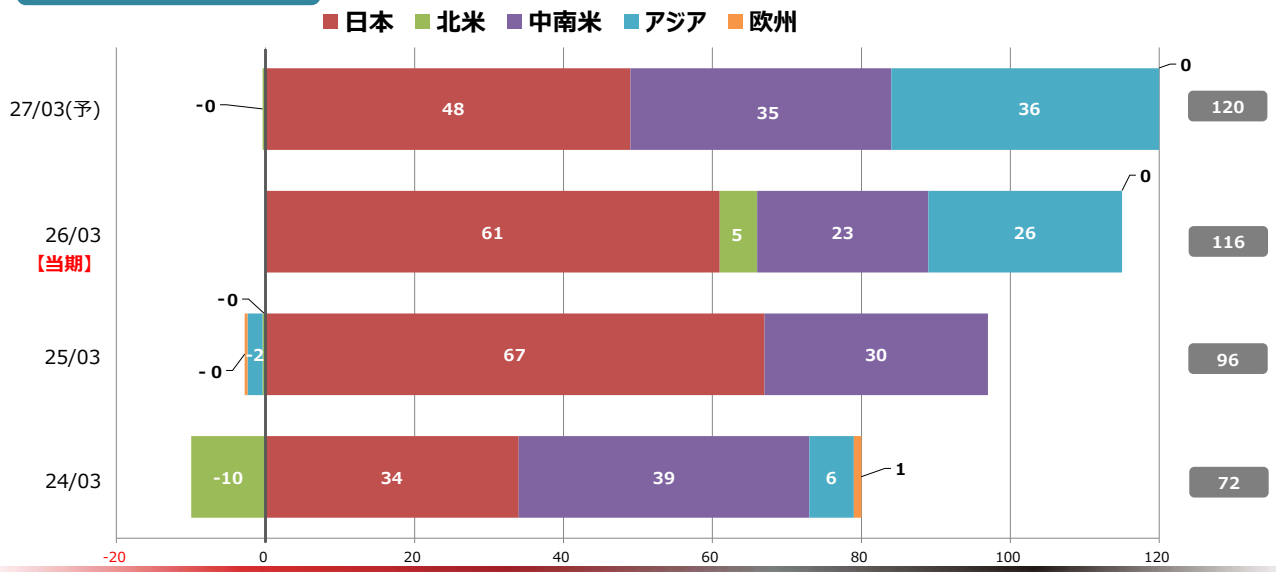


TACHI-S

利益の推移（連結）ー所在地別 営業利益ー

単位：億円
（億円未満切捨て）

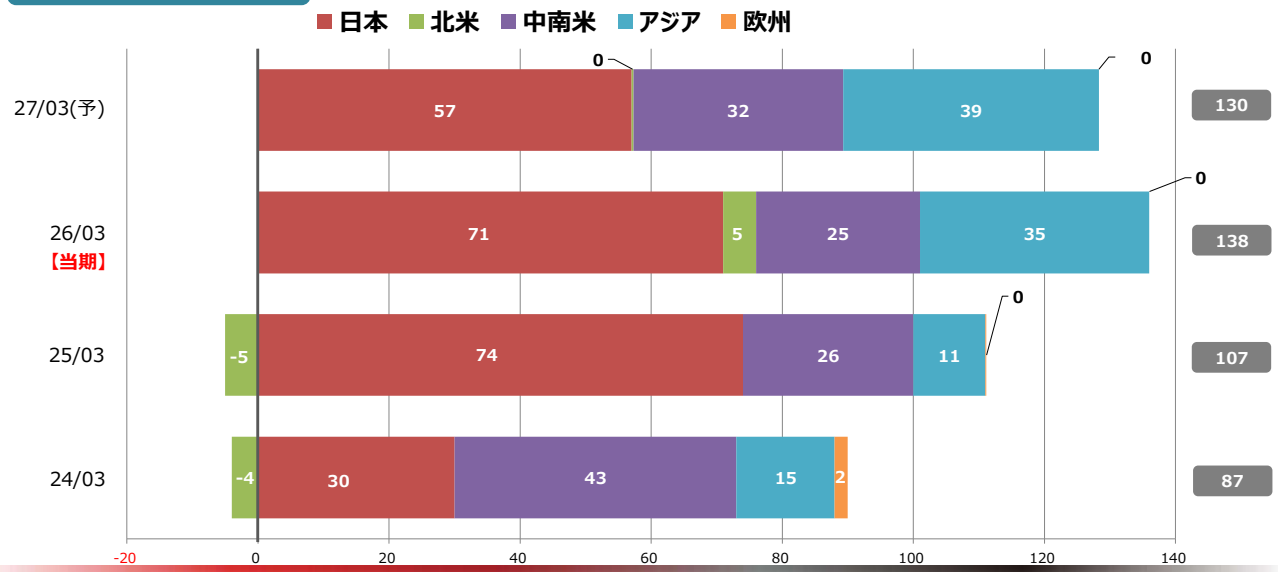
所在地別営業利益



利益の推移（連結）ー所在地別 経常利益ー

単位：億円
（億円未満切捨て）

所在地別経常利益



TACHI-S

事業所一覧（日本）

拠点名	所在地	業務内容	主な納入先	開設 年月
本社／技術・モノづくりセンター	東京都青梅市	本社機能 営業・調達・設計・開発・ 実験・生産・品質等技術全般	–	1954年 4月 ※2012年 4月 TTMC開設 2022年 12月 本社移転
技術センター愛知	愛知県安城市	営業・調達・設計・開発	–	1999年 8月
愛知工場	愛知県安城市	自動車座席・座席部品の製造	三菱自動車、トヨタ紡織	1977年 4月
武蔵工場	埼玉県入間市	自動車座席・座席部品の製造	本田技研工業、日産車体、 日野自動車	1980年 1月 ※2022年 12月 平塚工場移転 2025年 1月 青梅工場移転
アドバンスト・テクノロジー・センター	東京都青梅市	試作・実験	–	1969年 4月 ※2025年1月 名称変更 （旧青梅工場）
栃木工場	栃木県下野市	自動車座席・座席部品の製造	日産自動車、日野自動車	1982年 2月
鈴鹿工場	三重県鈴鹿市	自動車座席の製造	本田技研工業	1984年 10月

25年3月31日時点

関係会社一覧（日本）

連結範囲	会社名	所在地	資本金	主な事業内容	主な納入先	出資比率 ( )は間接所有を含む	設立年月	決算期
◎	**株式会社TF－METAL**	静岡県 湖西市	百万円 50	自動車座席部品の 開発、製造、販売	タチエス、 錦陵工業、 TF-METAL Mexico	100.0%	2017年 5月	3月
◎	**株式会社Nui Tec Corporation**	秋田県 横手市	百万円 325	自動車座席用縫製部品の 製造、販売	タチエス、 トヨタ紡織東北	100.0%	2006年 7月	3月
◎	**株式会社タチエスH&P**	東京都 青梅市	百万円 40	各種バネ・自動車等 座席部品・医療用ベッドの 製造、販売	タチエス、 TF－METAL、 自動車関連以外	100.0%	1961年 4月	3月
○	**錦陵工業株式会社**	福岡県 京都郡	百万円 100	自動車座席・座席部品の 製造、販売	日産自動車	25.0%	1976年 2月	3月
◎	**株式会社TF－METAL磐田**	静岡県 磐田市	百万円 15	自動車座席部品の製造、販売	TF－METAL、 日本発条	(100.0%)	1986年 10月	3月
◎	**株式会社TF－METAL九州**	大分県 中津市	百万円 10	自動車座席部品の製造、販売	TF－METAL、 ジェイテクトコラムシステム	(100.0%)	1985年 7月	3月
◎	**株式会社TF－METAL東三河**	愛知県 新城市	百万円 10	自動車座席部品の製造	TF－METAL	(100.0%)	1986年 10月	3月

◎連結子会社 **6社**　△持分法適用の非連結子会社 **－**　○持分法適用の関連会社 **1社**　□非連結子会社 **1社**　※持分法非適用の関連会社 **－**　□ **タチエスサービス株式会社**

関係会社一覧（北米）

連結範囲	会社名	所在地	資本金	主な事業内容	主な納入先	出資比率 ( )は間接所有を含む	設立年月	決算期
◎	**TACHI-S Engineering U.S.A., Inc.**	米国 ミシガン州	百万USD 43	北米における 営業、開発業務及び統括管理	–	100.0%	1986年 7月	3月
◎	**TF-METAL Americas Corporation**	米国 ミシガン州	百万USD 0	米州における統括管理、開発	–	(100.0%)	2000年 7月	3月
◎	**SETEX, Inc.**	米国 オハイオ州	百万USD 5	自動車座席の製造、販売	北米本田	(100.0%)	1987年 9月	3月
◎	**TACHI-S Automotive Seating U.S.A., LLC**	米国 テネシー州	百万USD 22	自動車座席の製造、販売	北米日産	(100.0%)	2005年 12月	12月

◎連結子会社 **4社**　△持分法適用の非連結子会社 –　○持分法適用の関連会社 –　□非連結子会社 –　※持分法非適用の関連会社 –

関係会社一覧（中南米）

連結範囲	会社名	所在地	資本金	主な事業内容	主な納入先	出資比率 ( )は間接所有を含む	設立年月	決算期
◎	**TACHI-S Engineering Latin America, S.A. de C.V.**	メキシコ アグアスカリエンテス州	百万MXN 2,184	中南米における開発業務及び統括管理	–	（100.0%）	2012年5月	12月
◎	**Industria de Asiento Superior, S.A. de C.V. (TACHI-S Mexico)**	メキシコ アグアスカリエンテス州	百万USD 26	自動車座席・座席部品の製造、販売	メキシコ日産	（100.0%）	1991年4月	12月
◎	**SETEX Automotive Mexico, S.A. de C.V.**	メキシコ グアナファト州	百万USD 24	自動車座席の製造、販売	メキシコ本田	（100.0%）	2012年9月	12月
◎	**TF-METAL Mexico, S.A. de C.V.**	メキシコ アグアスカリエンテス州	百万USD 27	自動車座席部品の製造、 販売	TSM、フォーレシア	（100.0%）	2012年6月	12月
◎	**TACHI-S Brasil Industria de Assentos Automotivos Ltda.**	ブラジル リオデジャネイロ州	百万BRL 525	自動車座席の製造、販売	ブラジル日産ルノーブラジル	（100.0%）	2012年8月	12月

◎連結子会社 5社　△持分法適用の非連結子会社 –　○持分法適用の関連会社 –　□非連結子会社 –　※持分法非適用の関連会社 –

関係会社一覧（中国-1）

連結範囲	会社名	所在地	資本金	主な事業内容	主な納入先	出資比率 ( )は間接所有を含む	設立年月	決算期
◎	**泰極愛思（中国）投資有限公司**	中国 広東省	百万RMB 259	中国における 営業、開発業務及び統括管理	–	100.0%	2011年 10月	12月
△	**泰極愛思（鄭州）汽車座椅研発有限公司**	中国 河南省	百万RMB 75	中国における開発業務	–	(100.0%)	2015年 12月	12月
○	**広州泰李汽車座椅有限公司**	中国 広東省	百万RMB 66	自動車座席の製造、販売	アディエント 東風日産	49.0%	2004年 11月	12月
◎	**湖南泰極愛思汽車座椅有限公司**	中国 湖南省	百万RMB 40	自動車座席の製造、販売	広汽三菱汽車	(51.0%)	2012年 7月	12月
○	**襄陽東実李爾泰極愛思汽車座椅有限公司**	中国 湖北省	百万RMB 30	自動車座席の製造、販売	東風日産	(20.0%)	2013年 7月	12月
○	**鄭州泰新汽車内飾件有限公司**	中国 河南省	百万RMB 11	自動車座席の製造、販売	鄭州日産 奇瑞汽車	50.0%	2001年 7月	12月
◎	**武漢東風泰極愛思延鋒汽車座椅有限公司**	中国 湖北省	百万RMB 43	自動車座席の製造、販売	東風本田	50.0%	2008年 6月	12月

関係会社一覧（中国-2）

連結範囲	会社名	所在地	資本金	主な事業内容	主な納入先	出資比率 ( )は間接所有を含む	設立年月	決算期
○	**大連東実李爾泰極愛思汽車座椅有限公司**	中国 遼寧省	百万RMB 50	自動車座席の製造、販売	東風日産	(49.0%)	2013年 8月	12月
※	**武漢東実李爾泰極愛思汽車座椅有限公司**	中国 湖北省	百万RMB 50	自動車座席の製造、販売	東風日産	(5.0%)	2019年 11月	12月
◎	**泰極（広州）汽車内飾有限公司**	中国 広東省	百万RMB 38	自動車座席用縫製部品の製造、販売	タチエス	100.0%	2005年 9月	12月
◎	**泰極愛思（武漢）汽車内飾有限公司**	中国 湖北省	百万RMB 35	自動車座席用縫製部品の製造、販売	武漢東泰延	(100.0%)	2013年 10月	12月
◎	**浙江泰極信汽車部件有限公司**	中国 浙江省	百万RMB 251	自動車座席部品の製造、販売	タチエス TAST	(82.8%)	2019年 12月	12月

◎連結子会社 **6社**　△持分法適用の非連結子会社 **1社**　○持分法適用の関連会社 **4社**　□非連結子会社 **－**　※持分法非適用の関連会社 **1社**

関係会社一覧（東南アジア）

連結範囲	会社名	所在地	資本金	主な事業内容	主な納入先	出資比率 ( )は間接所有を含む	設立年月	決算期
◎	**TACHI-S Automotive Seating （Thailand） Co., Ltd.**	タイ バンコク都	百万THB 924	東南アジア、インドにおける統括管理 自動車座席・座席部品の製造、販売	タイ日産 タイ三菱	100.0%	2010年 4月	12月
□	**TACHI-S Engineering Vietnam Co., Ltd.**	ベトナム ホーチミン市	百万VND 31,026	ベトナムにおける開発業務		100.0%	2013年 1月	12月
※	**Uno Minda TACHI-S Seating Private Limited**	インド デリー準州	百万INR 134	自動車座席部品の製造、販売		49.0%	2022年 10月	3月
□	**APM TACHI-S Seating Systems Vietnam Co., Ltd.**	ベトナム ダナン市	百万VND 56,567	自動車座席の製造、販売		(51.0%)	2016年 11月	12月
※	**APM TACHI-S Seating Systems Sdn. Bhd.**	マレーシア スランゴール州	百万MYR 5	自動車座席の製造、販売		(49.0%)	2013年 2月	12月

◎連結子会社 **1社**　△持分法適用の非連結子会社 **－**　○持分法適用の関連会社 **－**　□非連結子会社 **2社**　※持分法非適用の関連会社 **2社**

お問い合わせ先

株式会社タチエス　経営企画室

〒198-0025
東京都青梅市末広町1-3-1　（本社／技術・モノづくりセンター）

電話 ： 0428-33-1138

E-mail ： ts-kikaku@tachi-s.co.jp

担当 ： 中村、福井、牧之内